

令和8年1月20日

自治会町内会長 様

南区青少年指導員協議会

会長 山崎 直宏

第45回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）作文集の配付について

時下 ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日ごろから、南区の青少年健全育成に御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、去る12月7日に青少年の気持ちや考えを作文に込めて、伝える「ボイス・オブ・ユース」を開催しました。

ついでには、南区内小・中学生1,477人の応募作品から、入選した67編をまとめた作文集が完成しましたので送付いたします。御一読いただければ幸いです。

なお、作文集は区HPからもご覧いただくこともできます。地域の皆様には、こども達の思いや考えを知っていただきたく、御周知くださいますようお願いいたします。

今後とも、当協議会事業に御理解と御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

担当：南区青少年指導員協議会事務局
(南区地域振興課区民活動推進係)

古尾谷・今井

TEL 341-1238 FAX 341-1240

第 45 回

ボイス・オブ・ユース

青少年の主張

YOKOHAMA
YOUTH
MENTOR

横浜市青少年指導員 シンボルマーク

南区青少年指導員協議会

凡 例

- 1 本作文集は、南区青少年指導員協議会主催の「ボイス・オブ・ユース」事業に応募された作文のうち、入選作品を収録したものです。
- 2 入選者から掲載許可をいただいた作品のみ掲載しています。
- 3 青少年の率直な意見や思いを忠実に反映しています。
ご理解とご配慮をお願いいたします。
- 4 一部の作品については、読みやすさを考慮し、句読点・段落等をご本人と先生の確認のうえ整理しています。

『第 45 回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊にあたって

.....

南区青少年指導員協議会 会長 山崎 直宏

ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）は今年、第 45 回目を迎えました。

これも小・中学校の校長先生を始め、諸先生方の深いご理解とご協力の賜物と、誌面をお借りして感謝し、お礼申し上げます。

また、文集発刊にあたりまして、今年も心強いご支援をいただきました団体、企業の皆さまにも合わせて感謝とお礼を申し上げます。

日本や世界を取り巻く政治、経済、自然環境などが非常に不安定な様相を呈している昨今、子どもたちが未来に向けてどんな思いを抱いているのか、今年は「災害時、自分たちは何ができるか（自分が思う助け合い、繋がる町とは）」、「もし自分が〇〇だったら、こんなことをやりたい」という 2 つの新しいテーマを加え、従来の「自由課題」と合わせて 3 つのテーマを設定し、区内青少年の皆さんから、約 1500 編という多数の作文応募をいただきました。

170 余名の青少年指導員は、約 2 か月にわたり嬉しい悲鳴をあげながら、67 編の入選作文を選考させていただきました。厳しい選考を経て入選されました児童・生徒の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たち南区青少年指導員は、日頃から子どもたちと目線を同じくし、区内の各地域の活動の中で、地域と子どもたちのパイプ役として、地域の人材としての子どもたちを育むために努力しております。

春のみなみ桜まつり、夏のふれあいキャンプ、秋のボイス・オブ・ユースと、年間をとおして、ふれあいの場、異年齢交流の機会を提供しながら、南区の子供たちが、団体行動の中での責任感をはぐくみ、人の痛みを感じることでできる大人に育って欲しいと願いつつ今後も活動してまいります。

結びに南区長をはじめ、連合町内会・自治会、諸先生、諸団体、各企業の皆さまに改めて感謝とお礼を申し上げるとともに、区内青少年指導員全員の日頃の努力と、ボイス・オブ・ユースをここまで育ててくださった先輩方の歴史の積み重ねに感謝し、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

『第45回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊に寄せて

.....

横浜市南区長 高澤 和義

第45回「ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）」の開催、誠におめでとうございます。

今年も多くの方の皆さんに御参加いただき、豊かな発想と率直な思いを聴かせていただいたことを、大変嬉しく思います。

今年のテーマ「災害時、自分たちは何ができるか」「もし、自分が〇〇だったら」では、「誰かの役に立ちたい」「自分だったらこうする」「こんな世の中になったらいいな」といった思いが綴られており、皆さんが自分にできることを真剣に見つめ、行動につなげようとする気持ちに、心強さを感じました。「自由課題」では、日常の出来ごとや身近な疑問を通して、自分自身と向き合う姿が描かれており、それぞれの個性が光るメッセージとして受け取りました。作品全体を通して感じられたのは、「自分の言葉で、自分の思いを伝えたい」という真摯な姿勢です。

このように、自分の考えを文章で表現する機会は、SNSなど短い言葉でのやりとりが主流となる今の時代だからこそ、より一層大切なものだと感じます。皆さんの表現力と想像力の豊かさに、改めて感動しました。

横浜市では「こどもまんなか社会」の実現を目指し、こども・若者の思いや声を聴き、生かしていく取組を進めています。皆さんの声は、地域のこれからを考えるうえで欠かせない大切な手がかりになります。

この「ボイス・オブ・ユース」を通じて、私たち大人は、青少年の声に耳を傾け、共に考え、共に育む地域づくりを引き続き、進めてまいりたいと思います。

最後に、本行事の企画・運営に御尽力いただいた南区青少年指導員協議会の皆様をはじめ、御協力・御支援いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

青少年の皆さんの思いが、これからの南区、そして社会全体をより良くする力となることを願い、発刊に寄せた御挨拶とさせていただきます。

第 45 回

ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）実施概要

- 1 事業概要 青少年の思いや考えを文章で表現した作文を通じて、青少年の率直な声に耳を傾け、お互いに思いや考えを理解することで、青少年の健全育成を図ります。
- 2 募集期間 令和7年8月1日～8月27日
- 3 対 象 南区内在住・在学の小学校3～6年生、中学生、高校生、一般（20歳まで）
- 4 募集テーマ ①災害時、自分たちは何ができるか（自分が思う助け合い、繋がる町とは）
②もし、自分が〇〇だったらこんなことをやりたい
（〇〇の例：総理大臣、横浜市長、南区長、自治会町内会長 等）
③自由課題
- 5 主催・共催 主催 南区青少年指導員協議会 / 共催 南区役所
- 6 協 賛 南区連合町内会長連絡協議会 横浜南ロータリークラブ
横浜南陵ロータリークラブ 横浜南中央ロータリークラブ
日本濾水機工業株式会社 横浜市薬剤師会
株式会社ジェイコム湘南・神奈川 横浜テレビ局
横浜弘明寺商店街協同組合 横浜橋通商店街協同組合
- 7 応募総数 1,477 編（うち入選数 67 編）

〈内訳〉

テーマ	小学生		中学生・高校生・一般	
	応募数	うち入選数	応募数	うち入選数
災害時、自分たちは何ができるか	139	6	272	3
もし、自分が〇〇だったらこんなことをやりたい	80	6	197	7
自由課題	446	21	343	24
合 計	665	33	812	34

（編）

8 選 考 会

（1）1次選考会

8月30日に青少年指導員により、1次選考会を実施。

（2）2次選考会

9月6日～15日で各地区において、2次選考会を実施。

（3）調整会議

10月3日に67編が入選作品に決定しました。

第45回ボイス・オブ・ユース入選者一覧 小学生の部

テーマ1：災害時、自分たちは何ができるか
(自分が思う助け合い、繋がる町とは)

6 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	谷平 惺	横浜市立六つ川台小学校	4 年
2	楊 晨希	横浜市立太田小学校	6 年
3	河内 睦	横浜市立南小学校	6 年
4	川崎 元翔	横浜市立六つ川台小学校	6 年
5	浪口 碧彩	横浜市立六つ川台小学校	6 年
6	磯貝 彩心	横浜市立六つ川西小学校	6 年

テーマ2：もし、自分〇〇だったらこんなことをやりたい

12 ページ

(〇〇の例：総理大臣、横浜市長、南区長、自治会町内会長 等)

	氏 名	学 校 名	学 年
1	佐相 南伎	横浜市立永田台小学校	4 年
2	青野 龍馬	横浜市立南小学校	5 年
3	石山 舜	横浜市立南小学校	5 年
4	井上 路	横浜市立南小学校	5 年
5	浪口 楓乃	横浜市立六つ川台小学校	5 年
6	佐々田 楓夏	横浜市立蒔田小学校	6 年

テーマ3：自由課題

18 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	石井 友悠	横浜市立南小学校	3 年
2	宮下 知也	横浜市立南吉田小学校	4 年
3	内田 侑里	横浜市立南小学校	5 年
4	狩野 星志	横浜市立南小学校	5 年
5	清家 ふたば	横浜市立南小学校	5 年
6	芦沢 昭都	横浜市立六つ川台小学校	5 年
7	伊藤 双樹	横浜市立六つ川台小学校	5 年
8	齋藤 瑛汰	横浜市立六つ川台小学校	5 年
9	遠山 雅仁	横浜市立南吉田小学校	6 年
10	岡田 悠花	横浜市立石川小学校	6 年
11	岸田 真希	横浜市立石川小学校	6 年
12	高柳 翔	横浜市立石川小学校	6 年
13	佐藤 世莉	横浜市立永田小学校	6 年
14	山本 四季	横浜市立永田小学校	6 年
15	柴田 ひまり	横浜市立南小学校	6 年
16	小林 詩	横浜市立藤の木小学校	6 年
17	齋藤 琉成	横浜市立六つ川台小学校	6 年
18	石井 楓	横浜市立別所小学校	6 年
19	古市 葵	横浜市立別所小学校	6 年
20	向 陽南	横浜市立別所小学校	6 年
21	内藤 結月	横浜市立六つ川西小学校	6 年

第 45 回ボイス・オブ・ユース入選者一覧

中学生・高校生・一般の部

テーマ 1: 災害時、自分たちは何ができるか
(自分が思う助け合い、繋がる町とは)

37 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	佐相 朱那	横浜市立永田中学校	2 年
2	田中 来実	横浜市立平楽中学校	3 年
3	イマム イティカ	横浜市立共進中学校	3 年

テーマ 2: もし、自分〇〇だったらこんなことをやりたい
(〇〇の例: 総理大臣、横浜市長、南区長、自治会町内会長 等)

40 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	吉良 藍流	横浜市立共進中学校	1 年
2	阿部 楓	横浜市立共進中学校	2 年
3	金子 舞俐	横浜市立共進中学校	2 年
4	高田 紫	横浜市立共進中学校	2 年
5	陳 雨涵	横浜市立共進中学校	2 年
6	押田 紗智子	横浜市立共進中学校	3 年
7	ムンデレ 莉美ルタマ	横浜市立共進中学校	3 年

テーマ 3: 自由課題

46 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	阿部 菜々実	横浜市立永田中学校	1 年
2	小山田 華純	横浜市立永田中学校	1 年
3	勝部 仁一郎	横浜市立永田中学校	1 年
4	加藤 柚希	横浜市立永田中学校	1 年
5	佐伯 美香	横浜市立永田中学校	1 年
6	佐久間 湊也	横浜市立永田中学校	1 年
7	平山 莉子	横浜市立永田中学校	1 年
8	吉野 あずさ	横浜市立永田中学校	1 年
9	藤木 和真	横浜市立共進中学校	2 年
10	松岡 伶奈	横浜市立共進中学校	2 年
11	糸 陽加里	横浜市立永田中学校	2 年
12	高原 心美	横浜市立永田中学校	2 年
13	武田 直華	横浜市立永田中学校	2 年
14	野本 エレナ	横浜市立平楽中学校	3 年
15	長谷川 茉耶	横浜市立平楽中学校	3 年
16	前田 笑茉	横浜市立平楽中学校	3 年
17	郭 心怡	横浜市立共進中学校	3 年
18	冬月 凱偉	横浜市立共進中学校	3 年
19	水谷 ティマフェイ	横浜市立共進中学校	3 年
20	橋本 結南	横浜市立南が丘中学校	3 年
21	浅香 美咲	横浜市立永田中学校	3 年
22	勝部 はんな	横浜市立永田中学校	3 年
23	倉谷 映里奈	横浜市立藤の木中学校	3 年
24	久田 夏帆	横浜市立横浜総合高等学校	4 年

小学生の部

テーマ1 災害時、自分たちは何ができるか

(自分が思う助け合い、繋がる町とは)

1 こんなときこそ思いやり感謝

横浜市立六つ川台小学校 4年 谷平 惺

流された車やオルガン、がれきの山が、教室に埋めつくされていた。これは、宮城県の荒浜小学校の震災遺構の様子だ。2011年、3月11日に東日本大震災が起きた。その時、ぼくはまだ生まれていなかった。

けれど、動画で災害の様子を見るきかいがあって震災のことを知った。

ぼくは震災で全員が無事ににげて助かった小学校があると知り、そこへ行きたくなった。家族に、「荒浜小学校に行きたい。」

と、言うとも家族は、さん成してくれたので、今年のゴールデンウィークに、震災遺構に行く事ができた。

震災遺構は、荒浜小学校の他にもある事が分かったので、色々な地いきの震災遺構にも、行く事にした。岩手県田老町、宮城県の陸前高田にある『奇跡の一本松』、気仙沼の向洋高校、東日本大震災遺構伝承館、福島県の浪江町立請戸小学校を見学する事ができた。

ぼくが行きたいと思っていた荒浜小学校は、校舎の2階まで津波が到達した。2階のベランダかべと鉄柵は倒かいしてがれきが、おし流されてきた写真があったり、津波で天じょうがはがれていたりした様子を見て、津波のい力のおそろしさを感じた。どれだけこわかっただろうか。全員が無事にひなんする事ができてよかったと思った。屋上にひなんした子どもの写真から心からそう思った。

荒浜小学校に公開はされていなかった教室の写真があった。その写真の説明の中に、ひなんした人がのこしたメッセージがあった。それは、「こんなときこそ、思いやり、感謝」というメッセージだった。ぼくだったらそんな風に思うことはむずかしい。このひなんした人は震災でみんな大変なときこそ、思いやり感謝の気持ちを持つことを忘れないでがんばろうと伝えたかったのだとぼくは思った。

そうした気持ちを荒浜小学校の人たちみんなが大事にしたから、無事にひなんできたと思う。

ぼくの住む地いきには、がけが多く、坂道がある。少し前に、けいじ板で地いきぼい災訓練のお知らせを見た。

もし、ぼくの住む地いきに災害が来たら、みんなが思いやりの気持ちを持って助け合えたら良いと思う。ぼくも思いやり感謝の気持ちを大事にしてできる事を精一杯頑張り、役に立てるよう成長したい。

2 もし災害が起きたら

横浜市立太田小学校 6年 楊 晨希

地震や台風などの災害はいつ起こるか分かりません。ニュースで災害の様子を見ると、胸がドキドキします。私は大きな災害を体験したことはありません。だからこそ、自分にもできることを考えたいと思いました。

学校の避難訓練では、ほう送を聞いて先生の指示に従って、校庭に出たりします。そのとき私は校長先生の話を聞いて、先生達は大きな災害を体験したことがあるからこそ避難訓練のときはいつもとちがうふんいきで話してくれるのかと思いました。私の家族には中国人のお父さんがいます。中国での災害のことを聞いたことがあります。中国の地域によっては、洪水が起きたり、長期間雨が降らない干ばつが起きたり地震以外の災害も多くあるそうです。日本のように学校で避難訓練をたくさんすることは少ないですが親せきや近所の人達で助け合うことが多くあるそうです。私はその話を聞いて「すごいなあ」と思いました。私もそんなふうに、助け合いができる町を作りたいと思いました。私は、日本と中国でやり方はちがっても「人を助けたい」という気持ちは同じなんだと感じました。国がちがっても、困ったときに協力することは大切なのだと気づきました。

このことから、私にできることはなんでしょう。私はまだ小学生なので大人のように大きなことはできません。ですが、小学生だからと言って何もできないわけではありません。例えば、避難するときに下の学年の子に声をかけたり、家で非常用袋の中身をいっしょに確認したりすることはできます。そんな小さなことでも、誰かの役に立てたら、きっと私もうれしいし、「ありがとう」と言われたらもっと、がんばろうと思えると思います。また、ニュースで困っている人を見て「自分だったらどう助けられるかな」と考えることももし本当に災害が起きたとき、冷静に行動するためだと思います。

災害はとてもこわいです。でも、準備して協力すれば、のりこえられることができるはずです。私はまだ小学生だけど、心の中ではできるかぎりがんばりたいと思います。これからも学校や家族といっしょに災害への備えを大事にしたいです。そして、日本も中国も、世界のどこでも、人と人とのつながりを大切にして生きていきたいです。

3 地震の危険性

横浜市立南小学校 6年 河内 睦

みなさんは地震がどれくらい危険か知っていますか。地震の怖さを知っている人もいれば、その怖さをあまり知らない人もいます。これから地震の危険性、地震がおきたら何をしたらいいか、用意しておくといいものについて話をしようと思います。

まず、私がなぜこの話をしようと思ったか、その理由について書きたいと思います。

私は、2024年1月1日に石川県輪島市で地震にあいました。お正月に父と二人で輪島市の祖母の家に泊まりに来ていました。居間で冬休みの宿題をやっていると、突然家が大きく揺れだし、棚の上の物が落ちてきました。冷蔵庫や棚も倒れてきました。玄関の扉が開かなかったので、裏口からサンダルを履いて、靴を持って慌てて逃げました。外に出てみると、地面が割れていたり、石垣が崩れていたり、道路に木が倒れて、車が通れなくなっていたりしました。地震が収まったと思ったら、津波注意の警報になりました。地震は揺れだけではなく、津波を起こしてしまう危険な災害なのです。

その日は、家の中で寝られる状態ではなかったので、車の中で寝ました。次の日には、土砂崩れが起きて、家の近くの山が崩れ、川がダムみたいになり、橋が流される危険性があると言われ、避難所に逃げました。通信手段も絶たれ、横浜にいる母とも連絡が取れなかったので不安でたまりませんでした。そんな中、周りのお年寄りからお菓子や食べ物を譲ってもらい、不安が和らぎました。若い父は力仕事を任されて忙しそうだったので、私は話し相手がいなくて寂しかったです。避難所で一週間過ごし、父の友人の車で輪島市から移動することができ、家に帰れました。

帰ってきてから、家族で地震についてたくさん勉強しました。今回の地震を経験し、次に備えようと思ったからです。その一部を紹介します。

地震が起きたら、身を守るために丈夫な机の下に隠れましょう。火事の原因となる火の元を消しましょう。スリッパを履き、ガラスの破片から足を守りましょう。物が散乱していたら本を並べて道を作りましょう。揺れが収まったら外に出ましょう。津波の恐れがある場合は、高台へ避難しましょう。

救助までに時間がかかるかもしれないので、最低三日分の食料や水を用意しましょう。スマホ、現金、通帳などをすぐに持ち出せるようにまとめておきましょう。ライト、ラジオなど持っておくと便利です。

私は地震にあってから、地震への興味と防災の意識が高まりました。私は突然地震にあいました。みなさんもこれを読んで、災害にあった時に備えようと思ってくれたら嬉しいです。

4 今、僕にできること

横浜市立六つ川台小学校 6年 川崎 元翔

衝撃だった。

今から2年くらい前、家族で出かけた時に見た自転車とおばあさんの接触事故。自転車に乗っていたのは今の僕と同じくらいの男の子で、倒れて動かないおばあさんを前に泣いていた。まわりの大人たちはざわざわしていた。そこにめがねをかけたおじさんが自転車で通りかかる。すぐにかげよってざわざわしているまわりの大人たちに「救急へ連絡してください。AEDを持ってきてください。おばあさんのまわりを輪になって囲んでください。」と指示をした。僕は少し離れたところ

ろにいたがただ見ていることしかできなかった。ずっと頭のどこかにあって衝撃を受けた出来事だった。

今年の夏休み、僕は自由研究を何にするか悩んでいた。そこでふと思った。もし学校の帰り、あの時の事故のようなことが目の前で起きたら、もし習い事に行く時、倒れている人がいたら、僕は何かできるだろうか。そこで、僕は地域のAEDの設置場所を調べてみようと思った。まず、僕は自分が住んでいる地域の地図を書いてみた。自分が思うAEDが設置されていそうな場所に印をつけた。そして早速名札を付けて、AED調査へと出発した。スーパーやコンビニエンスストアなどを回り、最後に、印をつけた地図をもって消防署へ行った。5、6人の消防士の人たちが、僕が作った地図を机に広げて話を聞いてくれた。僕は二年前の出来事を話し、小学生の僕に今できることを聞いた。「川崎君が書いてくれた地図を友達や地域の人たちに見せることでみんながAEDの設置場所について知ることができるよ。」と話してくれた。

実は消防士さんたちも設置されていることを知らない場所もあって「すごいね。」とほめられた。僕はとてもうれしかった。前に地域の防災訓練に参加したことがあって、心臓マッサージやAEDのことを少し学んだことがある。そのことも話すと消防士さんからは「小学生はまだ力が弱い子が多いので心臓マッサージは助けられないかもしれないから、まず周りの人に助けを求めて、その時指名して伝えるといいよ。誰か、AEDを持ってきてください。というとなかなか動けないからね。」と教えてくれた。ふと、二年前倒れているおばあさんにかげよった、めがねをかけたおじさんは消防士さんだったのかもしれない僕は思った。

僕はあの時、何もできずに見ていたけれどあの時のことをきっかけに、今回AEDの設置場所について調査をしたことや、消防士の人たちに聞いた事は日常や災害時でもきっと役に立てる情報になると思う。この情報を、家族や友達や地域の人たちに伝えていこうと思う。そして今後は、見てだけでなく、何ができるのか考えて行動できるようになりたいと思った。

5 災害時にできること。

横浜市立六つ川台小学校 6年 浪口 碧彩

「地震です。地震です。」この声を聞いたことが何回ありますか。私たちが住む日本は地震大国です。学校では災害が起きた時の避難訓練を行っていますが、お家にいる時、公園で遊んでいる時、スーパーにいる時、習い事に行ってる時など、どのような状況でも地震が起こる可能性があります。様々な場面での避難の方法を考えておく必要があります。

昨年、私は引越しをしました。それは、私たち家族が災害について考える機会になりました。新しくお家を建てる前に、私たちは希望する項目を挙げて家族で話をしたり、住宅メーカーに見学や相談に行きました。私や妹は、自分の部屋が欲しい。学校を転校したくない。などの要望を言っていたが、父と母が挙げた希望は災害に関係するものが多くありました。私の父は災害が起きた時、すぐに職場に向かわないといけな仕事をしています。何度も災害の現場を体験していて、その恐ろしさや備えることの大切さを話してくれました。私の妹は日常的に医療的ケアを必要として

いて、通院や入院することもあり、そのことで神奈川県立こども医療センターの近くに引っ越してきました。災害時、妹が歩いて病院まで行ける距離の場所であることは必須ですが、緊急時、必ず病院で受け入れてもらえるかは分からないそうです。重症の人から優先して病院で処置されるため、家や避難所で過ごすようになる場合も考えておかないといけません。最近は、避難所まで向かう途中に災害に巻き込まれるリスクや避難所生活での精神的負担を考えると、自宅を避難場所にする「在宅避難」も考えておく必要があると言われてしています。そのため、私たちは、「在宅避難」に備えられるお家を考えました。

色々調べて、住宅メーカーでは災害に備えた住宅を考えていることを知りました。地震に強い構造や、水害対策では水に浮くお家も建築されています。私たちは自分たちが住む場所や環境を考えて、耐震と太陽光発電システム、蓄電池、エコキュートを設置しました。もし、電力会社からの電力の供給が止まっても蓄電池には最低限の電気が確保されていて太陽が出れば電気を作ることができます。エコキュートでは生活用水を日々貯めておくことが出来ます。住み始めてから、ユーチューブなどで災害時の電気や水、システムの使い方を確認しています。災害時に備えておくものを準備することと、その使い方を理解しておくことが大切だと思います。

私の知っている医療的ケアのある人の中には、呼吸するために医療機器を使っていたり、体温調節が必要であったり、電気によって生命を維持している人がたくさんいます。小さな赤ちゃんのいる家庭には、清潔な環境も必要だと思います。災害が起きた時、困っている人がいたら、私たちの家でそのような人達を助けたいと思います。

6 人とのつながりを大切に

横浜市立六つ川西小学校 6年 磯貝 彩心

私は、この町が大好きです。なぜなら、地域の方は、協力的で、優しく、明るく、お祭りなど行事がある時は、とっても盛り上げてくれます。私は、「こんなに、楽しい地域でよかったな」と思っています。

最近、ニュースで地震や洪水の場面をよく見ます。何人もの人が、不安で、夜もねむれない日々が続いたと思います。私は、とても悲しくなりました。実際に、私は、2024年になったばかりの、1月1日能登半島地震を経験しました。私はその時に、新潟県のおじいちゃん、おばあちゃんの家に行きました。最初に、強い風かと思う音がしました。「ゴー」という音です。その時でした。急に大きなゆれで、おどろいて立っていると、お母さんに手を引っぱられて、急いで机にもぐりました。机の下にいても、体が大きく左右にゆれ、このままどうなってしまうのだろうととてもとても不安でした。机にもぐりながら周りを見てみると、食器棚が、開いていたからか、食器が落ちてきて、たくさん割れてしまいました。ゆれがおさまったら、2階に行ってみると、棚が床に落ちていました。その時、携帯が一斉に「津波です。」と、いっていました。おじいちゃんおばあちゃんの家は、海のすぐ側で、おじさんの車でにげました。いざ、道路に出てみると、車でじゅうたいができてい

ました。私は、ずっと海の方ほうを見ていました。なんとか、高い山の所につき、私は少し安心しました。でも、車の中では、ニュースで被害の様子が映し出されました。私はその時、ものすごくこわくなりました。なんとか私たちは、亡くなってしまったひいおばあちゃんの家に一時ひなんすることができ、次の日には、帰ることができました。

テレビでは、大地震の時に、家を失い、食料も衣服もなく、何日もひなん生活をしている人が必ずいます。実際に、このままどうなってしまうんだろうと、私は心の中で想像していました。もしも、今横浜で大地震が起きたら、ひなん生活をせざるをえない人がきっといます。それで、私たちにできることが、身近なことにたくさんあります。一つ目、高れい者の方とたくさんおしゃべりをする。二つ目、逆に、小さい子と遊ぶこと。三つ目は、みんなが、楽しめる遊びを考え、実行する。こんなに簡単なことで、だれか一人でも楽しんだりしてくれる人がいるはずです。大人が、やっている炊き出しを手伝わなくても、こんなにやることはたくさんあるのです。ご飯だけでは、精神的に不安なひもは、ほどけないと思います。だからこそ、私たちが、最前線でできることを探して実行してみてもいいのでしょうか。

人と人とのつながりというのは、災害時だけではできないと私は思います。だからこそ、日常から地域の方とのあいさつ、行事での交流などで、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

小学生の部

テーマ2 もし、自分〇〇だったらこんなことをやりたい

(〇〇の例：総理大臣、横浜市長、南区長、自治会町内会長 等)

1 もし、自分がベイスターズの社長だったらこんなことをやりたい

横浜市立永田台小学校 4年 佐相 南伎

ぼくは、横浜 DeNA ベイスターズが大好きです。大好きになったきっかけは、お父さんが会社の人とベイスターズの試合を見に行きに行って楽しそうだったので、ぼくも行ってみたいと思いつれて行ってもらいました。ベイスターズをおうえんするのが楽しかったので、そこから大ファンになりました。今年の夏休みは、5回横浜スタジアムにおうえんしに行きました。行けない日は、家でテレビなどでもおうえんしています。

大好きなベイスターズをもっと盛り上げるために三つやってみたいことがあります。一つ目は、「スタジアムの設けを整える。」です。試合を見に行った時、となりの人とのきょりが近いのできゅうくつに感じました。試合の時間は長いので、席がゆったりしているとつかれにくくて、初めて来た人も楽しめると思います。夏はとても暑くておうえんしづらいです。スタジアムに屋根があったらすずしくなると思うのでスタジアムに屋根を作りたいです。

二つ目は、「もっと地域の人とかかわる。」です。今も選手は小学校に来てくれています、もっと小学校に来ると選手のことを知ってもらえてスタジアムに行きたい人がふえると思います。お年よりの人で野球が好きな人がたくさんいます。スタジアムに行きたくても行くのが大変で行けない人がいると思います。お年よりの人の所にも会いに行き、もっと元気になってもらいます。

三つ目は、「町をベイスターズカラーにしたい。」です。ベイスターズのカラーは、青です。横浜市営バスのボディを青色で、選手がプレーしているすがたをのせたバスにしたいです。ぼくは、野球を見に行く時、横浜市営バスに乗って関内駅まで行きます。ベイスターズカラーのバスに乗ると、おうえんする前から気合がはいります。ふだんからベイスターズカラーを見たり乗ったりできるとぼくはうれしいです。たくさんの人にもっとベイスターズのことを知ってもらえると思います。また、スタジアムの最寄り駅の関内駅を青色にしたいです。

このように、たくさんの人にベイスターズを知ってもらって、みんなで一しょにおうえんしてベイスターズがもり上がります。そうすると町も元気になります。みんなをえ顔でいっぱいにしたいです。

2 「蚕とシルクの街ヨコハマ」を実現するために

横浜市立南小学校 5年 青野 龍馬

ぼくの家には蚕がいます。妹が総合の学習で飼い始めてから、家族みんな蚕が好きになり、夏休みに再び育てて観察しています。蚕は逃げたり、かんだりしないし、ふっくらしていてとてもかわいいです。桑の葉しか食べないので、えさやりが楽なのもみ力的です。

しかし、肝心の桑の木が見つかりません。近所の公園にあると聞いたのですが見当たらず、上永谷や戸塚まで取りに行っています。また、ニュースで年々養蚕農家が減っていることを知り、蚕を育てにくい現実には悲しくなりました。

ぼくが横浜市長になったら、「蚕とシルクの街ヨコハマ」をアピールしたいです。横浜は、かつて生糸産業が盛んであり、生糸は横浜を代表する輸出品でした。しかし、世界恐慌や戦争により、生糸産業は衰退したと博物館で知りました。

ぼくは、このままでは生糸産業どころか、養蚕業自体がなくなってしまうのではないかと恐ろしさを感じています。かといって、昔のように大々的に養蚕農家を始めるのは難しいと思うので、蚕が好きな人や養蚕にきょう味のある人をつのり、市の予算を使って養蚕センターを作り、そこで養蚕を行い、今の時代にあった形で養蚕業を再発展できないかと思うのです。

そこでまずは、桑の木をたくさん植えたいです。桑の木がないことには蚕をたくさん飼えないからです。そして、これからの生糸産業は、量よりも質の高い「ヨコハマシルク」のブランドを広めていけば、じゅ要があると思います。

また、蚕が吐く糸の成分「フィブロイン」が、人工血管などの再生医療の分野で効果的に利用していけるのではと、病院で働くお父さんから聞きました。横浜で研究を進めて、蚕が多くの人々の命を救えるようにしていきたいです。

さらに、蚕は食べることもできます。韓国では「ポンデギ」と呼ばれるサナギの料理があり、屋台などで売られています。横浜中華街で蚕料理を提供し、SNSにあげれば人気が出て、他県や外国から食べに来る観光客も増えそうです。

そして最後に、蚕のかわいさや尊さ、糸を吐いてまゆを作る感動的な姿を、多くの子どもたちに知ってもらいたいです。横浜にはシルク博物館があるので、遠足で訪れたり、社会科で横浜と生糸の歴史を学んだ後、蚕を実際に飼うなどして、教育面でも蚕をアピールしていきたいです。

かわいくて桑の葉だけで手軽に飼える蚕。だけどそれは、生糸やシルク、再生医療、食べ物などに変化する、多くの可能性を秘めた素晴らしい生き物です。そんな蚕のみ力を多くの人に知ってもらうため、ぼくは横浜市長として「蚕とシルクの街ヨコハマ」をアピールし、衰退しつつある養蚕業を横浜から見直して、再び盛り上げていかれたらと考えます。

3 日本の食料不足を防ぐために

横浜市立南小学校 5年 石山 舜

みなさんは日本の食料自給率が何パーセントか知っていますか。ぼくは38パーセントと知ってとてもおどろきました。特に魚や肉、大豆などが自給率が低いそうです。みなさんが毎日食べているほとんどは輸入にたよっているのです。このように外国からの輸入に依存しすぎると外国になにかあった時に、必要な食料が手に入らなくなってしまう、食料不足や最悪の場合ききんにつながる可能性もあります。

そこでぼくが総理大臣になったら、食料自給率を上げることに取り組みたいと思いました。

ぼくは、食料自給率が下がる理由として米農家の数が特に減っていることに着目しました。なぜかという、米は日本が作っている農作物の中で生産量が多く、自給率も高いので米の生産量が減ってしまうと食料自給率が更に下がってしまいます。しかし、米の自給率が100パーセントを超え、輸出するほどまでに上がれば、何かあっても米にたよることができます。なのでぼくは、食料自給率を上げるためには米の自給率を上げる必要があると思いました。

しかし、今も米農家は減り続けています。その原因の一つ目は、売り上げが天候などによって大きく左右される一方で、コストはあまり変わらず、収入が不安定であること。また、二つ目は、始めてすぐには、多くの土地や高価な農業機械は買えず、赤字になりやすいことが挙げられます。

そこで、ぼくは米農家の最低収入を決めるという政策を考えました。そうすることで米農家が始めやすくなり、やめる米農家が減るので米農家の数が増えると思ったからです。

また、ぼくは米農家だけでなく農家自体を増やすためにもう一つ政策を考えました。それは農業の面白さを伝える科目をつくるという政策です。そうすることで子供の頃に学んだ農業の大切さを忘れずに大人になり、将来的に農家でなくても農業に関わる人が増えます。そして日本農業が活性化します。

このような取り組みをすることで米の自給率が上がり、食料自給率が上がります。

このように様々な方法を使って、日本の食料自給率を改善するべきだとぼくは思います。

4 「夕方学校」

横浜市立南小学校 5年 井上 路

最初に、私が横浜市長になったらやりたいことを説明します。私が横浜市長になったら横浜市全ての小学校、中学校に、「夕方学校」を設立します。夕方学校とは、小中学校で授業が終わった後に、全ての希望者が参加できる学校です。授業の内容は、通常の小中学校で行った事をもう一度復習したり、習った事を深めたり発展させたりすることが目的です。これによって昼間の授業でわからなかったり、できなかったりしたことを解消できます。わからなかったり、苦手なところをも

う一度教えてもらったりするので苦手な教科が減り、全体の学力が上がると思います。また、これによって塾や習い事に行くお金がない家庭でも、その子に必要な学習を補うことができ、収入による学力格差を小さくすることができます。また、勉強だけではなく体育や音楽などもあり、苦手なことを夕方学校で克服することもできます。希望者だけの参加にすることで、人数が昼の学校より少なくなることが予想されます。その分空いている教室や体育館、校庭などを利用して、みんなが交流できるプログラムや、行事に利用できます。夕方学校の授業は昼間と同じように学年別で行います。ですが、だれがどの授業をうけてもいいのです。3年生が2年生の授業をうけてもよいし、分かるのなら4年生が6年生の授業をうけてもよいのです。また、何かの理由で学べなかった事や、もう一度学びたい人が必要な授業をうける事もできます。また、希望者は帰りに夕食を食べて帰ることもできます。なぜなら全ての夕方学校には子ども食堂が備えられているからです。あらかじめ場所を探さなくとも、多くの学校には給食室があるため学校に子ども食堂を併設することが可能です。

夕方学校の運営は、学校の先生を定年退職された方や仕事を定年退職された元気な高齢者の方々、これから先生を目指す学生など、はば広い人たちを募集して運営していきます。

私はお母さんとお父さんが二人とも働いているので弟と学童クラブに通っています。学童クラブに通いながら、「なぜ、希望している人が全員入れないのだろう。」とか「学童クラブに学校の授業のような物があればいいな。」などと思っていたところに子ども食堂の事を知り、その3つが全て合わさった「夕方学校」の事を考え始めました。考えていくうちに夕方学校が実現すれば、現在問題となっている収入による学力格差、子どもの食事の問題が解消され、合わせて高齢者の仕事の間をふやすことができると考えました。また、夕方学校が実現し地域に根付いていけば、その地域の世代を超えた交流が深まることも期待できます。

「夕方学校」ができることで私が生まれ育ってきた横浜市が、年齢を問わず「ここに住みたい。」と思える横浜市になってほしいと思います。

5 私が横浜市長だったら

横浜市立六つ川台小学校 5年 浪口 楓乃

皆さんは子ども食堂に行ったことはありますか。私が横浜市長だったら、地域に子ども食堂を沢山作りたいです。

私はこの夏、子ども食堂へ行きました。母の仕事の付きそいで行ったため、子ども食堂の代表の方から、どのような目的で、何をしているのかなどお話を聞くことが出来ました。「子ども食堂ってどんなところ。」こども食堂では、子ども達がお腹いっぱいご飯を食べることができ、地域のみんなと仲良くなれる場所を目指しているそうです。私が今回行ったわいわい食堂は、子どもだけでなく、誰でもご飯を食べに来たり、遊びに来てもいいそうです。来ている人達は3・4歳位の子から高齢の方までいて、まずは受付で食事代を払います。この日のメニューは、私の大好きな冷や

し中華と稲荷寿司で、おかわりも自由でした。食堂では6名のスタッフさんが大量の麺や野菜を茹でていて、盛り付けた食事を、明るい声と優しい笑顔で渡してくれました。親子で来ている方たちは、何回も来ているのか顔見知りのようで、お話ししながら笑顔で食べていたので、私も楽しい気持ちになりご飯をととても美味しく食べることができました。食器を返しに行くと「美味しかった。デザートができるまで遊んで待っていてね。」と言って下さいました。わいわい食堂では、ご飯を食べた後、大学生のお兄さんお姉さんと遊ぶ時間があります。私はその人達と子ども食堂に来ていたお友達にけん玉を教えてもらい、そのおかげで、技が出来るようになり、けん玉が好きになりました。このような人との繋がりが、私自身新しいことを知るきっかけになり、この場所の素敵さを知ることが出来ました。しばらく遊んで、デザートが出来上がり、取りに行きました。この日のデザートはピーチパフェでした。すごく美味しく、ほっぺたが落ちそうでした。帰るときも、声をかけて下さり、温かい気持ちになりました。イベントの間、食堂の方はみんなに声をかけていて、その時のみんなの顔はとても嬉しそうでした。皆で集まってご飯を食べて、遊べる場所はお腹だけでなく、心も満たされる場所だと思います。

また、他の子ども食堂の人たちと一緒に夏に、神社の草むしりイベントを開催します。その目的は、普段食堂に来ている子ども達の地域への恩返しです。子ども食堂は、その日出会った方たちだけでなく、運営するために寄付してくれる方や場所を提供してくれる横浜市の様々な方たちの協力で、開催できているそうです。

私が行ったのは睦町地域でした。子ども食堂を開催している地域は限られているみたいです。私は、たくさんの人にこのような場所に参加してもらうことが出来たらいいと思います。横浜市長になったら、みんなが集まれる子ども食堂をもっと増やしていきたいと思います。

6 もし、自分が保健室の先生だったら

横浜市立蒔田小学校 6年 佐々田 楓夏

私の将来の夢は、保健室の先生になる事です。理由は、私と同じような悩み、想いを抱えている人達を救える場所だと思っているからです。なぜなら、私自身の体験が、保健室に通うことで学校に通うことができるようになったからです。

私は、先生との相性やごはんを食べると気持ち悪くなってしまう事などが原因で、学校に行くことができなくなってしまいました。最初は、学校に行くことが辛くて、ずっと休んでいました。そんな時、保健室登校を知りました。初めのうちは、やっぱり行くことが辛くて、少ししか行けませんでした。だけど、保健室の先生のおかげで、行ける日が増えて行きました。

でも、保健室に登校はできても、教室に行くことや給食を食べることはなかなかできずにいました。友達に迎えに来てもらったり、給食に誘ってもらったりしたけれど、できませんでした。勉強もどんどん遅れていって、塾にも入ったりしましたが、気持ち悪くなってしまう、すぐにやめてしまいました。それに、家庭の事情もあり、正直生きることが辛くなっていました。

しかし、そこを保健の先生が助けてくれました。先生は私の悩みを聞き、一緒に解決法を考えてくれました。おかげで、だんだん教室に行くことも、給食を食べることもできるようになっていきました。修学旅行に行ったり、教室で勉強したり、みんなと一緒にできることも増えていきました。カウンセラーさんや学校の専任の先生も助けてくれましたが、その中でも保健の先生の力が一番大きかったです。

元々、私の夢は水族館で働くことでした。でも、私を含め、いろいろな人達を救っている先生と過ごす中で、いつしか私も「あんなふうにかくさんの人を救いたい。」と思っていました。だから、私は保健の先生になることを目指しています。そして、私が保健の先生になったら、怪我をした人達を手当てしながら、私と同じ悩みや想いを抱えた人達に寄り添い、一緒に考え解決する。時には、休み時間などにふらっと立ち寄ったり、気軽に遊びに来れる。そんなみんなの居場所になるような保健室にしたいです。

このような体験をした私だからこそ、いろんな人達の助けになれる。支えになれる。そんな気がします。「今がどれだけ辛くても、大丈夫。私もそうだったよ。でも、こうして先生になれたから、いくら辛く苦しくても、きっと大丈夫。絶対に大丈夫。」そう伝えられる先生になりたいです。

小学生の部

テーマ3 自由課題

1 3年生の漢字研究

横浜市立南小学校 3年 石井 友悠

ぼくは、漢字が好きです。どうしてかという、形が面白くて、しゅるいがたくさんあり、書く事が楽しいからです。

今年の学校の自由研究で、漢字けん定8級について研究をしました。たんにんの先生から、3年生の漢字はふくざつな形、組み合わせのものが多く、6年間の中で一番むずかしいとされていること、漢字を文章の中で使えるようになるとういと教えてもらったのがきっかけで、ぼくは漢けんドリルを手書きで作ってみたいと思いました。

漢字けん定8級は、3年生で習う漢字が出題されます。3年生では全部で200字習います。国語じてん、漢字じてん、漢けんのか去問題集、学校のドリルやアプリを使って調べました。

ぼくのドリルには、音読み、くん読み、部首、意味、じゅく語、書きじゅん、画数などを書きました。書きじゅんの部分は、色えん筆を使って分かりやすくしたり、部首の一らんを書いたりして工夫しました。

とくに気をつけたいと思った字は、階だんの「階」です。こざとへんと「比べる」という部分の書きじゅんが、むずかしいからです。

他にも、音読みがなく、くん読みしかそんざいしない字があります。それは日本の言葉を表げんするために作られた漢字で、国字とよぶ事も知りました。たとえば、「畑」や「皿」や「箱」です。また、文みゃくによって意味がかわる漢字があることも学びふ思ぎだなと思いました。

夏休みが始まってから毎日少しずつ作せいで8月の中ごろかんせいしました。全部で64ページになりました。さい後の1ページを作っている時は、もうすぐかんせいすると思うとワクワクしました。父と母に見せたら、

「毎日つづけてやりきったね。出来上がるのを楽しみに待っていたよ。」

と言ってくれました。うれしくて、たっせい感がありました。作ることがとても楽しかったので、終わってしまったのが少しさみしい気持ちにもなりました。

3年生で習う漢字を研究することで漢字のみ力を知り、ゆたかな気持ちになりました。毎日コツコツつづけることの大切さも実感しました。このドリルを使って漢字けん定8級にチャレンジしたいと思います。みなさんもぜひすきな事やきょう味のあることについて、研究をしてみてください。とても楽しいですよ。

2 正しい理解を

横浜市立南吉田小学校 4年 宮下 知也

今年とてもショックなニュースを耳にしました。埼玉県桶川市の中学校で、先生が吃音の生徒のまねをしたことが原因で不登校になってしまったということです。いじめを止める立場である先生によるいじめは許すことはできません。ニュースを聞いてとても心を痛めた理由は、私は吃音という障害を持っているからです。吃音というのは、言葉がなめらかに出ないことです。吃音のある人の割合は全人口の1%で、多くが幼少期に発症して、半分位の人が小学生前に自然に治るみたいです。吃音には種類があり、私は言葉が出にくくなる難発、繰り返してしまう連発の症状があります。そして、話しやすいと時と話しにくい時の波があります。原因はわかりません。私は5歳くらいから吃音になり、4年生の現在でも症状が出ているということは、この先ずっと症状は残ると思います。でも、治ってほしいです。

私も以前、話し方をまねされたり、何でそんな話し方なの？と言われてたり、うつるから逃げろと言われてたり、いじめにあったことがあります。現在、ことばの教室という、普段とは別の小学校に月に数回通っています。そこでは吃音のトレーニングをしたり、吃音を正しく知ってもらうためにクラスで発表する準備を先生と行ったりしています。私が僕という言葉を使わない理由は、いかに吃音を出にくくするかの対策として私という言葉を使っています。それを通じて、感じたことは、正しい理解を周囲にしてもらうことが大事だということです。本人の努力不足ではない、吃音はうつらない、吃音のある人は話すことが嫌い。むしろ私は発表も好きだし、人と話すことも大好きです。私が発表する時には、時間がかかっても最後まで聞いてくれて、頑張ると自然と声をかけてもらうことが多くなりました。変わった話し方だと思われるのは仕方ない。けれど、指摘しないことが思いやりに繋がります。

今年、吃音の励みになったことがありました。それは英検3級に合格したことです。一次試験が筆記、二次試験は面接です。日本語でも吃音が出るのに、英語でも当然吃音は出ます。吃音の人は、面接で優遇措置がありますが、受かるとしていなかったのもので、通常の試験で受けました。合格を知った時、他の試験とはまた別の喜びがありました。

最後に、みなさんにお願いがあります。吃音をこの機会に正しく知ってください。そして、私を例に出してもらって、広めていただきたいと思います。田中角栄元首相やフリーアナウンサーの小倉智昭さん、偉大なる方も吃音でした。吃音は私にとって本当は受け入れたくはないけれど、宿命だと思っています。健常者の人だって得意不得意はある。ただ吃音の人は話し方が違うだけ。

差別・偏見・いじめは絶対にだめ。何度も言います。絶対ダメ。

3 保護猫活動について

横浜市立南小学校 5年 内田 侑里

みなさんは、保護猫活動の事について考えたことはありますか。私の家では、2匹の保護猫を飼っていて、生まれた時から猫と一緒にくらしてきました。でもこれまで、保護猫以外は飼ったことがありません。保護猫とは飼い主がいらないのら猫のことです。そんな猫たちを保護する「保護猫活動」について調べてみました。その活動は、保護猫のじょうと、TNR活動、地域猫のお世話、保護猫活動のしえん、そして里親になるという主に五つの種類があります。TNR活動とは、のら猫をほかくし、子猫が生まれないように手術し、元の場所に戻す活動のことです。なので、未来の苦しむ猫たちをふやさないためにも、多くの人たちが関係し、協力しあって活動を行っています。

前に、新しい猫を迎えるために、保護猫のじょうと会に家族で参加しました。そこには、保護猫達と関係のある方たちが、たくさんいました。その時、私は「可愛い」という目でしか見ていなく、何も知らずに、猫を選んでしまっていました。

その後、楽しみにしていた猫が家に来る日がやってきました。猫がとても好きなので嬉しかったけれど、保護猫活動とはどういうものなのかを知りませんでした。そして今回、色々調べてみてたくさんの事がわかりました。

そして保護猫を家に迎える前に、母がアンケートを出していたそうです。そのアンケートには、家族構成、猫がひとりの時間はどれくらいか、家族の収入、そしてアレルギーなどについてがかけられてあったそうです。私はアンケートの内容を聞くまで軽い気持ちで新しい猫が家に来るのを楽しみに待っていただけで、動物を飼うことはとてもかかごが必要なのだと知りました。今はまだ、苦しんでいる猫たちがたくさんいるので、少しでも猫たちを救いたい、未来を変えていけたらと思います。動物たちが私たち人間とうまく共存でき、みんなが幸せにらせる世界になることを願っています。私はこの活動にふれることで、命の大切さについても学べたように思います。

4 被害は地しんだけでおこるわけじゃない

横浜市立南小学校 5年 狩野 星志

みなさんにとって「平和」とはどんなものですか？私は差別や、人をきずつけ合うことがなく、みんなが仲良く協力して、みんなで笑い合えることが「平和」だと思います。そのことを夏休みに福島県に旅行へ行った時、強く感じました。

私は福島県にある東日本大震災・原子力災害伝承館と震災遺構・浪江市立請戸小学校に行きました。津波の被害がすごかったこと、そして原子力発電所のばく発事故により、これまでの日常が一つの出来事で、一変してしまったことに、とてもおどろきました。

私は実際に体験したわけではないけれど、話には聞いていたので、東日本大震災が大きな災害であったことは知っていました。でも、ふだん横浜で生活をしているとそのことを思い出したり、感じたり、考えることもありませんでした。

今まで、話に聞いていたことを実際に見ておどろくことは他にもたくさんありました。例えば、海側にはほとんど建物はなく、ただただざっ草の生えている場所。昔家があった場所には、家の区画だけが残し、道路があるだけの場所。そのような場所には歩いている人が全くいませんでした。そして、今なお、住めない場所があること。道路の両わきにはロープがかかっており、人が入れないようになっている場所が同じ日本にあることを実際に見て急にこわくなりました。

請戸小学校に行ってみると1階は津波でかべは流され、こわれたパソコンがあったり、教室に張り付いてあったものがはがれたり、体育館の中には取り付けられたまま残された卒業式の看板や、外にある階段が途中からなかったりと、たくさんのものがまるで時間が止まったようになっていしょうげきでした。しかし、その学校のこどもと先生は無事に2キロはなれた山にひなんをし、全員無事だったそうです。ひなんを指示した先生や、山のことをよく知っていたこどもが力を合わせ、無事に山の上まで逃げられたことを知り、とても感動しました。

しかし、震災の翌日、原発事故によるひなん指示が出て、学校の生徒達は、その後全国各地にちりぢりになってしまったこと、また、ひなん先で差別にあった子がいたこと、さらに、福島県の農水産物に対しての風評被害が今もまだ残っていることを知り、とても悲しくなりました。

これまで、私は住んでいる横浜、そして、日本には戦争がなく、安心してくらせる、とても「平和」だと思っていましたが、もしかすると、みんなにとって「平和」とは言い切れないのではないかと思います。そして、いつも一緒にいられる家族、共に笑い学び合う学校やじゅくの友達、大好きなサッカーなど、関わっている人や場所、時間をもっともっと大切にしたいと思いました。

みなさんも「平和」とはどんなものか、改めて考えてみてはいかがでしょうか。

5 しょうらいの夢

横浜市立南小学校 5年 清家 ふたば

私のしょうらいの夢は、小学校の先生になることです。小学校の先生の仕事は、確かに大変です。それでも私は先生になりたいと思う理由が二つあります。

一つ目の理由は、人になにかを教えることの楽しさを知ったからです。よく、授業で自分のやることが終わりしだい、こまっている人や、分からずもんもんとしている人がいると教えに行くことがあります。私は自分の中でも「これで伝わっているのかな。」と不安になります。ですが、そんなアドバイスや説明を聞いて「ありがとう。」「分かりやすかったよ。」などと言ってくると、やっぱり教えることって楽しいなと思います。私はその気持ちをわすれることができませんでした。

二つ目の理由は、そもそも何かを教える、伝えるというのが好きだからです。もともと、何かを教えたり、伝えたりするのはあまりとくいではありませんでした。何かを教えるとなると、きんちょ

うしてしてしまったのです。そんな教えることに苦手意識をもちながら、算数の時間に問題を解いていると、友達に「この問題、教えてよ。」と言われました。言われた時、私は苦手をこくふくするチャンスだと考え、教えることにしました。最初のころは多少きんちょうしていたけれど、教える回数をこなしているうちに、教えることが好きになり、自分から教えることができるようになりました。

最後に、私はもしも本当に小学校の先生になることができれば、みんなが、「楽しい」と思ってもらえるようなクラスにしたいです。おたがいの個性を理解し、なにより学ぶことの楽しさを知ってほしいです。大それた夢ではありません。私自身もそれを理解しています。だからこそ、今は勉強にはげみ、授業の時に教える力をつけていきたいです。

6 大事なもの

横浜市立六つ川台小学校 5年 芦沢 昭都

ぼくは自然が好きだ。どうして好きになったかという、父親が小さいころからよく山梨に連れて行ってくれて、畑で野菜や果物を育てたり、虫を捕まえたり、すぐ近くの川で水生生物を探したりしていたからだ。とくに父親が釣りをするので、川が大好きになった。

川の生き物は、川の中にいたり、森の中の木にいたり、石の下にいたりするから、どんな生き物が見つかるのか、すごくワクワクする。川の生き物の中でも、岩魚や山女魚、アマゴは、ぼくにとって特別な存在だ。なぜならば、2歳の時に、釣り竿で川魚を初めて釣りあげた。その時の感動が忘れられず、それ以来、川釣りの魅力にひかれていった。

父親に、「明日は釣りにいくよ」と言われると、興奮して、朝早く目が覚め、4時過ぎには家を出る。小さいころから、釣りのルールや極意を教えてもらった。釣り糸へのえさのつけ方や、川のどこに糸をたらせば魚がくるか、小さい魚は、リリースすることなどを教えてもらううちに、自然や生物を、大切にすることが強くなった。

ある日、池のような水たまりで、何かいるかな～と思い、えさを付けた糸を入れた。釣りあげてみると、アメリカザリガニというアメリカ原産のカニが釣れた。この生物を調べたら、日本では、条件付き特別外来生物に指定されている生物だった。この生物は、ハサミで水草を食べたり、切ってしまうことで、ほかの生き物のすみかや産卵場所をなくしてしまうため在来種や絶滅危惧種の魚の居場所がどんどんなくなってしまうのだ。また、「条件付き」の言葉が気になったので確認すると、だれでも飼育が認められているが野外へ逃がすことが法律で禁止されている。だから、ぼくは釣ったザリガニを2匹家に持ち帰り、3か月ほど水槽の中で、最後まで育てた。

特定外来生物によって、きれいな川の生態系が崩れてしまうことが、悲しい気持ちになったが、アメリカザリガニが悪いのではない。このようになったのは、家の中で飼育していた人が、無責任な気持ちで川へ逃がしてしまい、全国各地にザリガニが増えてしまったことが、原因だからだ。

このことを通して、ぼくは人間が自然に対して、無知なことや、身勝手な行動で自然の世界を壊してしまったと思った。特定外来生物という言葉は、人間が作ったものだし、この状況を作ったの

も人間だ。今まで大事にしてこなかったつけが回ったんだと思う。とても残酷な世界だと感じた。だから、自然への正しい知識を知ってもらい、人と自然が互いに優しい世界になるようにしたい。それにはまず、一人ひとりが責任をもって、自然や生物の命と向き合うことが大事だ。だから、一人でも多くの人に自然や生物へのマナーや素晴らしさを知ってもらいたい。そして、ぼくももっと自然に興味を持ち、学び続け、自分自身を磨き、いろんな大事なものを探していきたい。

7 自分たちの未来

横浜市立六つ川台小学校 5年 伊藤 双樹

ぼくには将来なりたいものがたくさんあります。野球選手、先生など他にもたくさんあります。大人になったら自分はきっと何でもできるような気がして毎日が楽しみです。もしも病気になったら、どうなるのでしょうか？

この夏、ぼくはお母さんと小児がんについての公開講座というものに行ってみました。そこで、「小児がん」という病気にかかってしまった、ぼくたちと同じくらいの年の子たちがたくさんいることを知りました。その子たちもきっとたくさんの夢を持っているはずなのに、病気の治療のために、学校を休まなくてははいけなかったり、つらい注射や手術をがんばったりしているそうです。

公開講座では病気とたたかっている人の子どものころのお話を聞きました。みんなに髪の毛がないことを笑われているという話を聞いたとき自分も心がいたくなりました。

ぼくたちがまずできることは小児がんのことを知ることです。公開講座で、大人がかかるがんと、子どもがかかるがんでは、少しちがうことを知りました。子どもたちの体は、まだ成長している途中なので、治療がとても大変なんだそうです。

次に大切なことは、知ったことをみんなに伝えることです。「小児がんって知ってる？」と、友だちに聞いてみましょう。そうやって、知っている人を一人、また一人と増やしていけば、きっと大きな力になるはずです。

病気とたたかっている友だちやその家族は、きっとさみしい気持ちになっているでしょう。ぼくたちは、そんな友だちを応援することができます。直接会えなくても、「遠くから応援しているよ」という気持ちを伝えることができますのです。例えば、みんなでメッセージカードを書いて贈ったり、元気が出るような絵を描いて送ったりするのもいいでしょう。

小児がんを治すためには、お医者さんの研究がもっと必要で、それには、たくさんのお金がかかります。ぼくたち小学生には、たくさんのお金を出すことはむずかしいかもしれません。会場でレモネードスタンドという募金活動を知りました。ぼくも実際に飲み物を買ってみました。それなら、ぼくたち小学生もかんたんに募金できると思います。

今回の作文を書いて、ぼくは、公開講座に参加したことで、知っているだけではなく、実際病気とたたかっている人たちの気持ちに少しだけふれることができた気がします。そして、自分にできることを考えました。

まずは、小児がんのことをしっかり知ること。そして、それを友だちに伝えること。そして、遠くにいる友だちも「ひとりじゃないよ!」と思えるように、みんなで応援することです。

いつか、すべての子どもたちが、病気の心配なく、思いっきり遊んで、笑って将来の夢に向かって歩んでいけるような世の中になってほしい。ぼくたちの小さな力が、きっとその未来を変えることになると思います。

8 正しい行動を

横浜市立六つ川台小学校 5年 齋藤 瑛汰

ぼくは、じゅくへ行くと中でこんな人達を見た。信号を待っていると、ぼくの目の前で赤信号なのに横断歩道をわたっている人がいた。別の日には、たばこの火を消さずに植えこみへ投げ捨てた人がいた。ぼくは、声をかけたほうがいいと思ったけれど、そのまましばらく歩き続けてしまった。だけど、もしも火事になってしまったらどうしようと思って、急いでその場所までもどり、火が燃えていないかすいがらを探した。植えこみの中をかき分けて、たばこの火が消えていることをなんとか確にんすることができてほっとした。また別の日には、コンクリートのへいのあなに空きかんを入れている人を見た。そして、今度は勇気を出して声をかけた。すると、その人は、

「ああ、ごめんねえ。」

と言って、かんを持って去っていった。ぼくは、勇気を出して言えてよかったと思ったけれど、こんな行動をする大人がいて悲しくなった。

学校の授業で、地いきの方達が毎月第4日曜日に近所の公園でゴミ拾いをしていると聞いたので、ぼくは手伝いに行った。暑い中で、地いきの方達があせを流しながらゴミを拾っているすがたを見て、ぼくもがん張りたいという気持ちがわいた。そして、ふだんからゴミ拾いをしようと思って、夏休みにお母さんやお兄ちゃんと何度か公園のゴミを拾いに行った。おかしのふくろやアイスのぼう、水道の近くには使い終わった水風船のかけらがあちこちに落ちていた。これらよりももっとたくさん落ちている物があった。それは、たばこのすいがらだった。ベンチの下や通り道、鉄ぼうやブランコの近くなど、あらゆる所に落ちていた。「あっちにも、こっちにも、たばこのすいがらが落ちている…」ぼくは、また悲しくなった。

公園のゴミ拾いをしている地域の方達は、すばらしいお手本だ。ぼくは、こういう大人になりたいと思う。だから、ふだんから友達や年下の子の良いお手本となることを意識して、正しい行動を心がけたい。そして、一人一人がルールを守って行動してほしいと思う。

9 本当に必要な事

横浜市立南吉田小学校 6年 遠山 雅仁

家族で訪れたサンフランシスコで、私はフェンタニルに倒れた人々を見た。歩道で立ったまま眠り、いや、意識を失っていた。大麻が許され、トイレや裏路地から特有のにおいが漂う街並み。誰も驚く様子もなく、その光景が日常の一部になっていた。僕は、自分の町をこうはしたくないと強く思った。しかし必要なのは本当に“ルール”だけだろうか。作文学習のテーマはルールだが、あえて言う。僕が本当に重視したいのは、ルールそのものではない。

本当に必要なのは、薬物に手を伸ばすほど弱っている人を支える社会だ。立ったまま意識を失うほど、街頭で耐えられないほど依存する人も、最初から使いたかったわけではないだろう。大切な人を失った心の痛み、慢性的な病気がもたらす耐え難い痛み、生活苦という現実。そうした痛みを風邪薬や鎮痛剤の延長のように“まぎらわせる手段”として始めてしまうことがあるのだ。

僕の知り合いは、アフリカ最大級のスラムにある児童鑑別施設で更生支援に携わっていた。そこにも薬物で補導された子どもが来る。理由を尋ねると、多くは「空腹に耐えられない」から。彼らに必要なのは、厳罰や取り締まりの強化だけだろうか。甘さを罰して正す“ルール”だけで本当に救えるだろうか。僕は違うと思う。サンフランシスコでも日本でも、必要とされる根本は同じだ。それは、体と心の空腹を同時に満たす仕組み、安定した食事、こころのケア、仕事や学校など安心できる居場所と、依存からの回復を諦めさせない教育だ。

日本はまだ大丈夫と思われがちだが、違法薬物の流通は確実に増えている。SNSを通じた匿名売買や、海外からの密輸の摘発、大学生などの事件も目にするようになった。もし今、十分な支援体制を整えなければ、サンフランシスコのような光景が決して遠い未来の話ではなくなるかもしれない。

僕たちにできる行動はある。まずは正しい知識を持つこと。薬物がもたらす依存と健康被害、そしてそこから抜け出す難しさを理解することだ。そして、困っている人を「自己責任」と切り捨てず、相談できる場所や温かい居場所を地域で用意することだ。学校や家庭で、失敗や弱さを語れる関係性を築くことも、薬物への入り口をふさぐ大きな壁になる。

誤解してほしくない。ルールは必要だ。流通の遮断、未成年の保護、公共空間の安全を守る線引きは社会の基盤だ。僕たちが目指すべきは、ルールを土台に、誰も絶望に押し流されない町を築くこと。薬物に「ノー」と言える力を個人に、そして「一人にしない」という約束を社会に。その両論こそが、僕たちの町を守ると思う

10 言葉の力

横浜市立石川小学校 6年 岡田 悠花

私は将来、看護師になりたいです。医者のように治療するというより、けがや病気で不安な気持ちになっている人の心のケアをする看護師になりたいです。

病院に行ったとき、診察や注射の前にドキドキしていた私に、看護師さんが「大丈夫だよ」「すぐ終わるからね」と優しく声をかけてくれました。時には、おもしろい話で気をまぎらわせてくれたこともあります。その言葉のおかげで、私の不安は小さくなり、心が落ち着きました。このとき、「言葉には、人の心を動かす力があるんだ」と感じました。だから私も、人を安心させたり、元気にしたりできる言葉の使い手になりたいと思います。

でも、私にはひとつ課題があります。それは、イライラしたときに、すぐに言葉づかいが悪くなってしまうことです。たとえば、家族や友だちに自分の考えを否定されたと感じると、カッとなって「うざい」「むかつく」「きらい」など、相手を傷つけるような言葉を言ってしまうのです。本当は、自分の気持ちをきちんと伝えたいのに、感情にまかせて言葉の力をまちがった方向に使ってしまいます。

私だけでなく、同じようなことが世の中でもたくさん起こっています。最近は、SNSの言葉のトラブルが問題になっています。友だちとやりとりをしているとき、イライラして強い言葉を使ってしまうことがあるそうです。SNSでは顔が見えないから、言葉で相手に伝えることになります。そのせいで、ちょっとした誤解や勘ちがい大きなトラブルに発展することがあると学校の授業でも、学びました。私は、まだSNSで発信をしていませんが、発信した時に、相手の気持ちを考えて、慎重に使いたいです。

相手の気持ちになって考える、それは、優しい言葉を使うための、最初の一步だと思います。言葉は、使い方次第で人を助けることも、傷つけることもあります。だからこそ、私は「言葉の力」を正しく使える人になりたいです。

私はいつか看護師さんのように、言葉で人を元気づけたり、安心させたりできる人になりたいと心から思います。そして、言葉の力を使って、どんな時でも周りの人に優しさを届けられるような存在になりたいです。これからは、一つ一つの言葉に意識をもって、相手にどんな影響を与えるかを考えながら、心温かい言葉を使っていきたいです。

11 あいさつでみんな笑顔に

横浜市立石川小学校 6年 岸田 真希

私の通っている小学校では、「あいさつ当番」という活動があります。この活動は昨年私が参加していた委員会が中心となって昇降口に立ち、登校してくる児童に、「おはようございます！」と声かけをする活動です。また、時々ここにこグループという1～6年生までの縦割りグループで週ごとにあいさつ当番をすることもあります。この活動は私が小学生になる前からあり、あいさつすることを通して他学年と仲良くなることや自分からあいさつが出来る人になって、学校の外でも地域の人に会ったらあいさつして欲しいという思いから始まったと聞いています。

しかし、あいさつ当番があいさつをしても返してくれる人は少なく、多くの児童が無視をして通り過ぎてしまいます。どうしたらもっと多くの人があいさつをしてくれるようになるのか、私自身沢山考えました。仲の良い友達に相談もしました。

ですが、いくら考えても良い案は浮かびませんでした。そこで視点を変えてまずはあいさつをする事でどんな良い事が起こるのか考えてみることにしました。自分の経験をふまえて考えたところ、私がたどりついた答えは三つありました。

一つ目は、あいさつをすることでその人と仲良くなれること。あいさつをすることでその人との会話が増え、自然と仲良くなることが出来ました。

二つ目は、朝をすっきりとした気分ですごせること。私は小さいころから「知っている人にはあいさつしようね」と言われてきました。しかし知っている人なのにあいさつをするのがはずかしく、だまってしまうことがよくありました。そのたび気まずい雰囲気になってしまい、どんよりとした気持ちで朝をすごしていたのを覚えています。

そして三つ目は、地域の方にあいさつをすることで互いを認識でき、災害時に助け合える関係を築けること。普段からあいさつを交わすことでお互いの顔や声を覚えることが出来て、地域の方を知ることや自分を知ってもらうことで防犯にもつながります。

この三つのことを私はあいさつ当番の仲間や友達など身近な人から伝えていきました。

しばらくして伝えたことがきっかけか分かりませんが次第にあいさつをしてくれる人が増えている事に気付きました。また公園などで遊んでいても自ら地域の方にあいさつする人もいました。その光景を見てみんなが笑顔なのに気付き、私はあいさつにはみんなを笑顔にする力があるのではないかと思いました。

私はあいさつをととてもすてきなことだと思っています。「おはようございます」の一言で災害時助け合える、笑顔の多い町を作れるのです。私はそう信じてあいさつを続けたいです。またみなさんにもまずは友達、出来ることなら地域の方にあいさつをして欲しいと思っています。

12 自分からふみだす一歩

横浜市立石川小学校 6年 高柳 翔

ぼくは初めて会った人と話す時は、とても緊張してしまいます。自分から話しかける勇気ができません。何を話したらいいか分からなくなるからです。どんな話をしたら、その人と仲良くなれるか考えてしまいます。

今年の4月に、入学式がありました。6年生は、1年生と手を繋ぎ体育館へ送る係があります。ぼくは、ドキドキしながら向かいました。その途中でペアになった1年生が、心配そうな目で不安な顔をしていましたが、ぼくはどういうふうに話しかけたらいいか分かりませんでした。しかし、前の人たちが楽しそうにしゃべっていたので、勇気を出して話しかけてみました。「大丈夫」と声をかけてみると1年生は安心したような顔になり、そこから一緒に楽しく会話をする事ができました。好きなゲームやアニメの話をして仲良くなりました。その子は、ポケモンが好きだったので「どのポケモンが好き」か「ゲームをやっているか」など一緒に話しました。このことで、自分に自信が持てるようになり、たくさんの人としゃべることができるようになりました。今では、三つのことを通して他の学年と話をしたり、仲良くなっています。

一つ目は、学童です。ぼくはドッジボールクラブに入っています。ドッジボール大会に出るために放課後体育館で、練習をしています。他の学年と話したり、キャッチボールをして友達になっています。教室では、けん玉やルービックキューブなどいろいろな遊びがあります。ここでは、ドッジボールに行かない人と話しています。

二つ目は、給食や掃除の手伝いをしている時です。1年生が牛乳パックを開く時の手伝いや、残したご飯やおかずなどを片付けたり、掃除では、ほうきの持ち方、ぞうきんのしぼり方などのアドバイスをしています。

三つ目は、他の学年と活動や交流をするにこにこ班です。6年生は、1から5年生をリードする役目です。運動会では、席を教えたりします。特に1年生は初めての運動会なので、緊張しないように話をしています。自分が1年生の頃、行きたくないと言っていたので不安そうな1年生の気持ちが良く分かります。

ぼくが入学式や他学年との交流を通して身に付いたことは、やさしく接すること、相手の気持ちによりそうことです。

これからは、たくさんの人とコミュニケーションをとる時は、少し勇気を出して話しかけて見る事、相手の気持ちによりそうことを意識していきたいです。ぼくが一番伝えたかったことは自分の行動に自信を持つことです。これから先、中学、高校、大学、大人と成長していく時にせまりくるかべが絶対にくると思います。そのような時も自分に自信を持ち、のりこえていきたいです。

13 一言の力

横浜市立永田小学校 6年 佐藤 世莉

皆さん、あいさつは好きですか。私はあいさつが好きです。あいさつは人に元気や勇気、前向きな気持ちを与えてくれます。だから私はあいさつがとっても大事で大切な言葉だと思っています。しかし私は最初、あいさつはやっていて何の意味があるんだろう。そんな疑問を持っていました。あいさつの良さに気づけたのは小学1年生の時でした。私は、保育園が遠く、最初、永田小学校に友達や知り合いが一人もいませんでした。その頃の私は学校に行くのがとても嫌で毎日下を向きながら登校していました。そんな時、校門の前で6年生が「おはよう。」と笑顔で声をかけてくれました。その一言に私は勇気をもらい、緊張しながらも隣の席の子に「友達になってくれない。」と声をかけてみました。すると「いいよ、友達になろう。」とってくれました。そして私はあいさつの良さを知りました。私は永田小をもっとあいさつあふれる学校にしたいと思い、2年間あいさつ運動がある児童運営委員会に入りました。

私はいろいろな工夫をしてあいさつに取り組んでいます。そこで児童運営委員会や、私個人で考えた、あいさつの工夫を、三つほど紹介します。一つ目はハイタッチをしながらあいさつをすることです。やってみるとハイタッチをしてくれる人だけではなく、笑顔であいさつをしてくれる人もいました。二つ目は外国語であいさつをする工夫です。英語のハローやフランス語のボンジュール、韓国語のアニョハセヨなどたくさんの国のあいさつをしました。すると頑張って世界のあいさつを覚えようとしてくれる人がいました。それを見た時、私はとても嬉しかったです。最後に三つ目です。これは私個人が取り組んでいることです。朝、友達と一緒に登校していて学園隊さんがあいさつをしてくれていたのに友達があいさつをしていないということがありました。そんなとき、「あいさつしてみようよ。」などと声をかけています。児童運営委員会のあいさつ運動は次に未来に繋げていき、今よりもっとあいさつや笑顔溢れる永田小学校に、そして永田のまちにも広がっていくと信じています。

このようにあいさつは、人を前向きにしたり、学校や地域などが豊かになる力を持っています。皆さんもあいさつをして自分達の地域へと広めていきましょう。そのためにはまず明日、家族でも友達でも「おはよう。」とあいさつをしてみませんか。きっと朝から気持ちよく過ごせて、あいさつの良さや大切さ、大事さに気づけるはずです。さあ、あいさつという言葉を使って地域、世界へと広げていきましょう。

14 「当たり前」って何だろう？

横浜市立永田小学校 6年 山本 四季

私は、自分の考えや文化だけではなく、ほかの国のことを知り、おたがいに分かり合うことが、国際平和につながると考えています。

みなさんにとって、ご飯を食べるときの「当たり前」とは、なんですか。

私は、ご飯を食べる前に「いただきます」食べ終わったあとに「ごちそうさま」と言います。これが私にとっての当たり前です。でも、正直に言うと、毎回言うのが面倒くさいと思うこともありますし、「どうして毎回言わなきゃいけないの。」と考えることもありました。

そこで、その理由を考えてみました。「いただきます」や「ごちそうさま」は、ご飯をつくってくれた人や、食材を育ててくれた人への感謝の気持ちを表す言葉なのだと気づきました。でも、世界では「いただきます」と言う国はあまり多くありません。日本では当たり前のことが、世界ではそうではないのだと知りました。

日本で生活していたら、誰もが当たり前だと思っていること。これは、食文化だけではなく、私たちがふだん使っているものにもたくさん見られるのです。

たとえば、トイレです。みなさんは、トイレの使い方の説明を見たことがありますか。便座の使い方や水の流し方など、私たちには当たり前に見えることが、くわしく書かれていることがあります。私はこれを見て、「日本人だけじゃなく、外国から来た人のためでもあるんだ」と思いました。

国によっては、トイレの使い方が全然ちがいます。たとえば、中国やインドでは、ドアがなかったり、水をくんで、手でおしりを洗ったりする国もあるそうです。母がタイに行ったときのトイレの話を聞き、日本のトイレの使い方が世界では当たり前ではないんだと知りました。

だからこそ、日本では、誰にでも分かるように丁寧に使い方の説明をし、どんな人でも不自由なく使えるようにしているのです。

だから私は、自分の当たり前を押しつけるのではなく、相手の文化や考え方を大切にすることが大事だと思います。そして、まずは相手のことを知ろうとする気持ちが大切です。いろんな国の文化や考え方を学んで、受け入れられるようになりたいです。

私たちの毎日の生活の中にも、おたがいのちがいを分かり合うチャンスはたくさんあると思います。まずは、ちがいを知って、認め合うこと。それが国際平和につながる第一歩になると、私は信じています。

15 自分に正直で

横浜市立南小学校 6年 柴田 ひまり

私には高校2年生と中学3年生の兄がいます。小さいころは二人の兄と一緒に毎日戦いごっこをして遊んでいました。いつも3人で家や公園で遊ぶのが楽しかったです。

幼稚園の時は、お母さんが買ってきたスカートやワンピースも着ていましたが、いつからか兄と同じような服やかみ型がかっこよくていいなと思うようになりました。なので、小学校の入学式以降スカートは、はいていません。動きやすくてかっこいい服が好きなので今までずっと好きなかっこうで過ごしています。

小学4年生の終りごろ、お母さんと一緒に美容院に行って初めてショートカットにしました。ずっとしてみたいと思っていたかみ型だったので、とってもうれしかったです。

ある日、サッカーの帰りにコンビニのトイレに寄りました。女子トイレは数人並んでいたのですが、私も列の一番後ろに並びました。すると前に並んでた人に

「男の子は空いているから入って平気だよ。」と、男子トイレの方を指さしながら大人の人に言われました。私はその時、「なんで大人なのに分からないんだ。」といういかりと、初めてそのようなことを言われたので何て言っているのか分からなくなり、困っていましたが、母が

「女の子なので大丈夫です。ありがとうございます。」と、言ってくれました。

他にも、家族で買い物に出かけた時も、トイレで

「男の子はこっちじゃないよ。」と言われたこともあります。更衣室などに入ると、変な目で見られることもあります。そのようなときはとてもいやな気分でした。それ以降、外出先でトイレに行ったり、更衣室などを行くとまた間ちがわれないかなと不安になってしまいます。

でも、男の子に間ちがわれないようにかみを伸ばしてスカートをはこうとは思いません。好きなかみ型で好きな服を着て、公園でたくさん走ったり、サッカーをしたりしている自分がいいからです。

これから先、かみを伸ばしたくなったり、かわいい服を着たくなるかもしれません。そんな時いつでも自分に正直でいたいと思います。

16 あいさつ一つで1日が変わる

横浜市立藤の木小学校 6年 小林 詩

みなさんはひごろからあいさつをしていますか？私は藤の木小学校で火水木金曜日の朝に門の前に立ってあいさつをしています。その時、私は気づいたのです。高学年はあいさつをしてくれる人が少ないと。高学年になり、まかされる事がふえ、いそがしいと思います。でも門の前に立ち、あ

いさつをしているのにあいさつを返してくれないのはとてもかなしいです。そんなあいさつを返してくれない人にあいさつのメリットをおしえます！まず一つ目。元気になる！朝はねむくて、体がおもくて、「学校に行きたくな〜い。」という人もいると思います。そんな時は友達や先生にあいさつをすれば…「あっ、自分のあいさつを返してくれた。うれしい！」となります。これは自分からあいさつしても、相手からあいさつをしてくれても同じです。相手からしてくれた場合は「あっ、自分にあいさつをしてくれた！うれしい。」となります。いや〜な朝を楽しい気持ちや、うれしい気もちになったら1日が楽しくはじまります。メリット2。れいぎが正しくなる。私があたり前につかっているあいさつ。おはよう。おやすみ。いただきます。ごちそうさまでした。などなど、まだたくさんありますよね。親にしっかりあいさつをしていますか？親になれてきたら、次は友達。友達もよゆ〜となったたら本題。知らない人、学校の人にあいさつです。だいじょうぶ！ぜったいにできますよ！がんばってみてください。あいさつをするだけで自分も相手もよい気分になるのですから。このようにあいさつをするとよいメリットがたくさんありましたね。あいさつにデメリットはありません。一步ふみだしてみませんか？

17 「ワンアクションで救える命」

横浜市立六つ川台小学校 6年 齋藤 琉成

みなさんは、飲み終わったペットボトルのキャップをどうしていますか？

ぼくの周りの友達に聞いてみると、プラスチックごみとして普通に捨てていると答える人がほとんどでした。ぼくも、今まではそうでした。ですが、その捨てているペットボトルのキャップで、救える命があるのです。

1年前、ぼくは友達と市営プールへ行きました。飲み物を買おうと、自動販売機の前に立つと、横に箱が置いてあることに気づきました。中には、ペットボトルのキャップがたくさん入っていて、そこにはワクチンのことについて書かれていました。ぼくは、ペットボトルのキャップからワクチンが結び付かなかったので、気になって調べてみました。

まず、リサイクル業者がキャップを回収します。次に、工場でペレット状に加工し、プラスチック製品を造る業者に販売します。その売上の一部が、ワクチン支えんにつながるそうです。ミャンマー、ブータン、マダガスカル、パキスタンなど、世界の子どもたちに支えん団体を通じて、ワクチンが届く仕組みになっています。さらに調べると、ぼくはとてもショックを受けました。世界には、ワクチン接種を受けられずに、感染症で20秒に一人の子どもの命が失われているそうです。日本では考えられないことです。ぼくは、小さいころにお母さんに連れられて、病院で注射を打ってもらい、受付の人にごほうびのおもちゃをもらったことを思い出しました。今までは特に考えたことがありませんでしたが、この支えんのことを知り、ぼくはワクチン接種をあたり前に受けられて、めぐまれているんだなと思いました。

世界では、これまでワクチン支えんで、多くの子どもたちが救われていますが、まだまだ救えて

いない命があるそうです。

ぼくは、家族に協力してもらい、キャップを集めることにしました。去年の夏から始めて1年になります。1年間で1037個を集めることができました。約1000個のペットボトルキャップで、一人分のワクチンができるそうです。1人から10人、100人から1000人が集めれば1000個になります。

「世界の子どもたちを救う」と聞くと難しいことのように思いますが、ペットボトルのキャップを集める「ワンアクションで救える命」があるのです。私たちにもできることがあり、こんな身近に支えんにつながるがあると、みなさんにも知ってもらいたいです。そして、世界中の子どもたちが、あたり前にワクチン接種を受けられるようになってほしいと思います。

18 私の「普通」

横浜市立別所小学校 6年 石井 楓

みなさんは「普通」とは何だと思いますか。私には高校1年生の兄がいます。兄はADHDという発達障害があります。ADHDとは「注意欠如」や、「多動症」のことです。そして私は自分の兄に対して、どうして「普通」にできないのだろうと思っていました。

兄は、話の流れと関係のない話をずっとしてしまっていたり、周りを気にせず急に動いたりして、周りの人に迷惑をかけてしまったりすることがあります。そういう時私は、「普通」と違う兄にイライラして冷たくしてしまっていました。新学期から少し経ったころ、学校で5組のことについての動画がテレビ放送で流れました。5組とは兄と同じような人がいる特別な教室です。兄も小学校の頃そこに在せきしていました。

5組は兄のように周りの手助けが必要な人が安心して過ごせるところで、そこから少しずつみんなに慣れていくという場所でした。そこでそれぞれのペースで勉強して、それぞれの課題をがんばって解決しようとしていることを知りました。私はそれを聞いた時、ハッとしました。兄もそこでがんばっていたのに、私の兄への気持ちは「差別」だったのではないかと思い、悪い事をしたなと思いました。私はこのことについてもっと知りたいと思いました。

そこで、私はネットや、本などを使って世界の差別について調べてみました。すると障害や人種、貧富の差などで同じような差別をされている人が世界に何億人もいることを知りました。私は「自分と違う行動がイライラするから」と兄に冷たくしていました。世界で起きている差別も結局は自分の「普通」と違うことを否定しているのではないかと思いました。

ではどうしたら差別はなくなるでしょう。「普通」の基準は人それぞれ違います。それに気づいたのは5組の事についてお母さんに「相手を自分に置きかえて考えれば。」と言われた時です。

私たちは「自分の普通」が基準だと思っています。また、差別を受けている人も「自分の普通」の中で生きているのです。相手の事を自分に置きかえて考え、想像し、違いを認め合って共感することができたら私の「普通」をもっと広げて相手に合わせる事ができるのではないのでしょうか。

私もこれからは兄や自分と違う人と接する時、「自分の普通」を押し付けずに相手を思いやって接したいと思います。みなさんも「自分の普通」をもっと広げてみませんか。

19 楽しくスポーツをするために

横浜市立別所小学校 6年 古市 葵

「ちゃんと動けよ！そんなだったら試合に出るな！」

これは僕が実際にサッカーの試合で、負けたくない思いから、ついでてしまった言葉です。

みなさんは暴言を言われて傷ついたことはありますか。僕は先ほど言ったような暴言を言ったことも言われたこともあります。

僕はサッカーを始めた頃に「下手くそ」と何回もいわれました。その時は自分でも下手なのはわかっていただけ実際に言われてすごくショックでした。僕は辞めたいと何度も思いました。ですが親に「上手くなって見返してやれ」と言われてがんばることができました。このようにスポーツでは暴言が生まれてしまうことがあります。みんな最初は上手ではないのに悪口を言われて辞めてしまったらやりたいことができません。

スポーツだから暴言はしょうがないと思う人もいますが、スポーツだからと言ってなんでもいっていい訳ではありません。実際にワールドカップという大会でベルギーの選手は試合の後にプレーで文句を言われて自殺をしようとしたことがあったそうです。この話を聞いて僕は大好きなサッカーが少し怖くなりました。自分もまちがえたプレーをしたら文句を言われると思ったからです。でもふと自分自身に目を向けると、僕もだんだんとサッカーが上手くなっていくにつれ、自分より下手な選手に強い口調で文句を言うてしまうことがあることに気がつきました。

僕は改めてスポーツをしている時の自分自身の言葉遣いを振り返り、「ドンマイ」や「切りかえていこう」などのポジティブな声かけに変えたら、いろいろな人から声をかけられ頼られるようになってきました。他にもチーム全体が明るいふいんきになりました。

また、僕は5年生のときに行った球技大会では相手を尊重し味方をはげましあって勝ち負け関係なく楽しくやりました。その空かんはものすごく盛り上がり、楽しくスポーツがしやすかったです。勝ち負けも大切ですが、それと同じぐらいみんなが楽しい空かでスポーツをする大切さに気づけました。

暴言ではなく、ポジティブな言葉を使うこと、強い口調で言ってしまったら試合後に謝るなど、サッカー上手い下手関係なく、みんなが平等に気持ちよくプレーできるように気をつけることが大切だと思います。

僕はどんなに大切な試合でも相手尊重することを忘れない選手になりたいと思います。

20 自分の好きが認められる世界に

横浜市立別所小学校 6年 向 陽南

「女だから医者にはなれない。」これは私が友達に「外科医になりたい。」と話した時に実際に言われた言葉です。医師は男性、女性は看護師というイメージを友達が持っていたゆえの言葉だったのだと思いますが、将来外科医になりたい私は、とてもショックだったのと同時に男性、女性として見るのではなく、一人の人間として接することが大切であると感じました。

今の世の中は、自分の思う男性、女性のイメージと違うことを好きだったり習っていたりする人に対して否定的な態度をとり、それが男女差別につながってしまっています。日本でどのくらい男女が平等になっているか気になり、調べてみると、人口の約67パーセントの人が平等になっていると感じていました。つまり、残りの33パーセントの人が男女差別に困っているということになります。

私も小さい頃、男の子がオレンジ色の色紙を選んでいる時に、「女の子みたい。」と言ってしまい、相手を悲しませてしまったことがありました。しかし、話しているうちに、その子が「オレンジ色が好き」だから選んでいることに気づき、自分は、男の子は、青系の色が好きだと思い込んでいたと気付きました。

このように、性別のイメージにとらわれず人と関わるために、互いに相手を認め合う事を提案します。認め合うといっても何をすればいいのかわからない人もいるかもしれません。私は実際に、あまり話したことの無い人がいたら、積極的に声をかけ、相手のことをよく知ろうと行動しています。積極的に話しかけることで相手のことをよく知り、また、自分のことを知ってもらうことができ認め合うことにつながります。

みなさん、女子トイレのマークを頭に思い浮かべてみてください。色は赤で、スカートをはいっていませんか。

私は、女性ですがあまりスカートを持っていません。実際にスカートを持っていないことで「男の子じゃん。」と言われたことがあります。このように男女差別は、周りの人の発言によって起こります。そうならないために、性別への偏見を無くし、多様な個性や考え方を知るとともに認め合うことが大切だと考えます。自分は差別だと思っていなくても知らぬ間に、相手を傷つけているかもしれません。

周囲の人を性別で分けるのではなく一人の人間として見てみてください。その人の個性を認めるのです。

私がここで提案していることは、誰もが今すぐに実践できることです。みなさんも目の前のことから始めてみませんか。15年後私が外科医として働いている頃、一人一人の好きや個性が認められる豊かな社会になっていることでしょう。

21 8年後の私へ

横浜市立六つ川西小学校 6年 内藤 結月

初めて自分に手紙を書きます。お元気ですか。病気やケガはしていませんか。アレルギーの良い薬が出て鼻のムズムズは治っていますか。今より技術などが進んでいるはずなので、今では治らない病気が治っているかもしれないと思うと、8年後がとっても楽しみです。

地球温暖化や少子高齢化、SDGsは、少しずつ解決に向かっていきますか。未来は世界が平和になっている事を心から願っています。

今の私は、毎日のように家族や大切な仲間とあれこれやりたい事をやり、笑って楽しく過ごしています。20才の私は、たくさん、思いっきり笑っていますか。こうして手紙を書いているけど、8年後の私はどうなっているのか、全く想像が付きません。大学生になっているのか、働いているのか、夢は見つかっているのか、今やっている習い事が活かされているのか、愛犬のぽんすけは元気なのか、大事な人はできているのかなど、今の私はまだしっかりと夢のことは考えていないので、気になって仕方がありません。でも、温かい人柄の大人になりたいなと思っています。

携帯は持っていますか。今は物事の優先順位をつけて進められるようになってから持たせてくれると約束をしていますが、やるべき事よりもテレビやYouTubeなどをこそっと見てしまうことが多いので、持てないかもしれません。

でも、完ぺきな大人なんていないとお父さんは言うので、時にはダラっとしたり、ずっとテレビを見ている日があってもいいのかなと思います。

まだ実家に住んでいます、私のことなので怖くて、海外に行ったり、一人暮らしはしていないと思います。

電車やバスなどの公共交通機関に一人で乗れるようになりましたか。今は場所が全然覚えられないので、道を覚えられるようになってほしいです。

大人でも、道を覚えられない人はたくさんいると聞いたので、安心も不安もあります。

ちなみに、祖母も苦手だったので、似てしまうかもしれませんね。

大人の私は、今の私に伝えておきたいことはありますか。それはきっと、「あまりテレビとYouTubeを見すぎるなよ。」の一言だと思います。気をつけます。

今からやってしまう失敗や注意しておいた方がよいことなどを先に聞いておきたいのが本音です。

あなたは、どんな気持ちでこの手紙を読んでいますか。

今の私には、大切にしたい人達がたくさんいます。大人の私が、どんどん大切にしたい人が増えているといいなと思います。

いろいろなことを経験して、今よりずっと素敵な大人になっていますように。

まだまだ知りたいことが山ほどあるので、また手紙を書きます。それまでお元気で。愛をこめて。あなたの味方・私より。

中学生・高校生・一般の部

テーマ1 災害時、自分たちは何ができるか

(自分が思う助け合い、繋がる町とは)

1 一人の勇気から町が変わる 考えよう未来のために

横浜市立永田中学校 2年 佐相 朱那

「あなたは災害が起こった時、誰かの為に動けますか。」近年、自然界の変動によって地震や台風、水害など災害に遭われて避難された人のニュースを目にします。今まで通りの生活ができなくなると自分だったら耐えきれず不安でいっぱいになると思います。

私の将来の夢は看護師です。私はよく医療ドラマを見ます。ドラマの中で心臓マッサージをしているのを見て自分でもできるか、どのように行っているのか勉強したいと思いました。あるとき町内会の防災訓練があるとお父さんが教えてくれました。訓練の内容は搬送訓練、救命訓練、応急手当訓練で私が知りたかった内容があり参加しました。訓練には消防士、消防団の方たちが教えてくれました。私が参加して思ったことが二つあります。一つ目は訓練の参加者がほぼ年配者だったことです。しかも子供は私だけ、若い世代が少なかったことに驚きました。二つ目はみんなの力を借りないとできないことです。例えば心臓マッサージのとき一人ではできません。救急車を呼ぶ人、AEDを持ってくる人、心臓マッサージをかわる人などみんなと協力することが必要だと改めて気づきました。私は心臓マッサージ（AED）を体験したのですが、急病人への声のかけ方や応援を呼ぶときの声が小さかったので、勇気を出して声を出すことの大切さがわかりました。また心臓マッサージではかなり力を使わないと正しくマッサージができないので自分だけの体力では続かないと思いました。でも AED の使い方は音声流れて指示をしてくれたり絵が書かれていたので私でもできました。

また、搬送も私にできると思いました。搬送訓練では、担架が無くても身近な物で代用する方法を学びました。1枚の毛布を使い、毛布の両端をきつめに巻くと丈夫な簡易担架が作れます。実際に男性の方を乗せてみました。その方は身長が高い成人男性だったのですがお互いの手をクロスしあって持ち上げると負担が少なく思っていたより楽に持ち上げることができ一切崩れませんでした。やはりみんなと協力し合うことが大切だと感じました。

この体験をして思っていることがあります。それは、勇気を出したら子供でも人を助けられます。みなさんに町内会の防災訓練に行ったことがあるか聞くと行ったことがないと答える人が多いと思います。私は一度でもいいから年齢問わずたくさんの方に防災訓練に参加してほしいと思います。そして普段から地域の人と関わることも大事だと思います。例えば挨拶、毎日することで何かあったときに助け合いができます。私も地域の人とたくさん関わりたいので元気よく挨拶を続けていこう

と思いました。そして、自分の夢である看護師になることにも繋がっていると思います。一人の勇気が人を救う、そして町は変わる。あなたも一度、防災訓練に参加してみませんか？

2 あなたとわたしの「得意なこと」

横浜市立平楽中学校 3年 田中 来実

私の生まれた日は、2011年3月11日、東日本大震災とよばれる災害が起こった日です。だれも予想などできなかったあの日、あなたは何をしていましたか。

幼い頃、誕生日に「あれから何年」とテレビで災害の衝撃的な映像が流れていることに気がつきました。「あなたの生まれた日は、みんなが忘れられない日なんだよ。」そのとき初めて正確に聞いたあの日の出来事は、今も私の心に深く残っています。

地震や津波だけにとどまらず、自然の脅威は突然にやってきます。もしかしたら、それは明日かもしれない。そんなときあなたは何かができるのか、考えたことがありますか。

以前、学校の道德の時間で、災害時の避難場所では何かできるかをテーマに、「僕/私はこんなことができますカード」を作ったことがありました。けれど私は、避難場所のイメージも湧かず、何から書こうか、できることなんてあるのだろうかと考え込んでいました。そのとき、「こんなのどう？」と声をかけられ、友達が書いたカードを見せてもらおうと、そこには、小さな子どもの遊び相手になる、簡単な中国語の通訳をするなど、友達ができること、得意なことを些細でもやってみようという、助け合いたい想いが伝わってくるようなことがいくつも並べられていました。「誰かといっしょにやれることも、あなたのできることだと思うよ！」そのような言葉をかけられて、迷いながらも、カードにできることを精いっぱい書き出してみることにしました。

私にできること…同じように避難してきたかたのお話を聴くこと。また、筆談をすること。炊き出しや配給のお手伝いをする。掃除をすること。ごみの整理や処理をすること…。考えてみれば意外にできることが多いことに気づき、はっとしました。

いざという時、「僕/私には、できることなんてないか。」と決めつけて何も行動を起こさなかったら、自分が元気や勇気を与えられたはずの人の心は暗いままかもしれません。

災害時、大切なのは、自分やまわりの人の「得意なこと探し」をすることであると思います。私はこれができて、あなたはこれができる。それならこうしてみようよ。そう声をかけあえば、だれか一人、また一人と助け合える輪が広がっていきます。苦しい災害から逃れられた人たちが、少しでもほっとする場所が作れたのなら、きっと「繋がる町」へと私たちが貢献する第一歩になるはずです。

3 災害時への問い

横浜市立共進中学校 3年 イマム イティカ

もし、今この瞬間に大きな地震が起きたら私は何をすれば良いのだろうか。家族は無事だろうか。友達や近所の人安全だろうか。そんな問いを自分に投げかけた時、私は、「自分が中学生だから何もできない。」

と思ってしまうことがある。しかし、本当にそうだろうか。

まず、私たちにできる一番大切なことは何だろう。答えは自分の命を守ることだ。避難経路を知っているだろうか。家の中や学校で安全な場所はどこか分かっているだろうか。机の下に潜る、ガラスから離れる、そんな行動を即座に取れるだろうか。自分を守れなければ、誰かを助けることもできない。

次に災害時は周りの人を助けられるだろうか。体力に自信が無くても、小さな子どもに誘導の声かけはできる。高齢の方の荷物を持ってあげることもできる。そんな小さな行動が誰かの安心につながるかもしれない。では普段から近所の人と挨拶をしているのか。知っている顔だからかこそ、災害時に声をかけやすくなるだろう。

情報はどうだろう。災害時、間違った情報が広がることもある。そんな時、私たちは正しい情報を見極められなければならない。SNSだけに頼らず、防災アプリやラジオで確かめられるだろうか。そして、その情報を家族や友達にきちんと伝えられる能力が必要となる。言葉一つで相手の行動が変わることがある。

そして、忘れてはいけないのが備えだ。防災グッズの場所は知っているか。家に水や食料は何日分あるのか。学校の防災訓練をただこなしていないか。今からできる準備をしておけば、将来の自分や家族を守れるはずだ。

災害は、いつ、どこで、どんな形で起きるか分からない。では、その時に何もできない自分であるか、できることをすぐ行動に移せる自分であるか。答えは、今の私たちの心構えと日々の準備にかかっている。中学生である今だからこそ、考え、行動できることがあるのではないか。

中学生・高校生・一般の部

テーマ2 もし、自分〇〇だったらこんなことをやりたい

(〇〇の例：総理大臣、横浜市長、南区長、自治会町内会長等)

1 もし、自分が看護師だったら

横浜市立共進中学校 1年 吉良 藍流

もし私が看護師だったら、入院している子供たちにとって、少しでも心強い存在になりたいです。なぜなら、私自身が入院を経験したとき、そっと寄り添ってくれる人の大切さを実感したからです。

私はつい最近、体調をくずして入院していました。いくつか検査をしても原因がわからず、「リンパ節生検」という検査を受けることになりました。お腹を切ると聞き、不安な気持ちでいっぱいでした。

検査のあと、いちばん不安になったのは、お腹よりも肩や鎖骨のあたりが強く痛んだことです。そのことを看護師さんに伝えても、「なんでだろうね。」と言われただけで、少しモヤモヤした気持ちになりました。

そんな中、検査の次の日に担当してくれた看護師さんが、たまたま同じ検査を受けたことがある方でした。その方は、

「私もそこが痛かったよ。お腹に空気を入れるから、それで肩のあたりも痛くなるんだと思う。」と、優しく教えてくれました。その言葉にとっても安心し、「自分の不安をわかってくれる人がいることって、こんなにも心強いんだ」と感じました。

この経験から、もしこれから同じ検査を受ける子がいたら、「私はここが痛くなったよ。」「検査後はこの体勢が楽だったよ。」「こうすると起き上るときの痛みが少なかったよ。」など、自分の体験を伝えてあげたいと思うようになりました。

また、入院生活では、体のつらさだけでなく、時間を持て余して退屈に感じる日も多くありました。特に検査がない日は、やることもなく、長い時間がゆっくりと過ぎていくのを感じました。そんなとき、時間のある看護師さんがベッドまで来て声をかけてくれたり、話し相手になってくれたりしました。学校のことや好きな食べ物、退院したら食べたいものなど、何気ない会話がとても楽しく、「今日は来てくれるかな。」と毎日のちょっとした楽しみになっていました。

だから私は、入院中の子供たちの気持ちが分かるからこそ、「こうしてもらえてうれしかったな」「こんなことを言ってもらえたら安心したな」という体験を生かして、寄り添える看護師になりたいと思います。病気のつらさだけでなく、心の不安や寂しさにも気づき、そっとそばで支えられる存在になりたいです。

もし自分が看護師だったら、つらいときにそっと手を差し伸べられる、そんな看護師になりたいです。

2 もし自分が南区長だったら

横浜市立共進中学校 2年 阿部 楓

もしも南区長になることができたなら、あなたは何がしたいですか。私は区長になれば、次の三つのことをしたいです。

一つ目は、子供たちが無料で部活の練習や遊ぶことができる場所を増やすことです。テニスやサッカー、野球など基本的には公園ですることができません。それは地域の人たちにボールを当ててしまうなどの事故を防ぐためだと思います。けれど、公園で部活の練習ができないと、子供たちは外で遊ぶのを控えるようになるかもしれません。万が一、練習できる施設や場所があったとしても、子供のお小遣いではとても払いきれないような値段だそうです。近年、子供が外で遊ぶことを控え、運動能力の低下が問題になっていますが、それはスマホやゲーム機が普及したことに加え、遊ぶことのできる場所の減少というのも要因として考えられるのではないのでしょうか。

二つ目は、学校で部活動のできる時間を増やすことです。中学校に入ると勉強も難しくなり、平日は塾などで部活に参加ができない友達が多くいます。だからといって、休日は決められた時間内ではしか、部活をすることができません。私の入っている吹奏楽部では、楽器が大きくて家に持ち帰ることができない人や、持ち帰っても音が出せず、あまり練習にならないという人も多くいます。なので、場所が空いていれば部活動の練習ができるような取り組みをしたいです。

三つ目は、公共交通機関での中学生料金を設定することです。これは区よりも市の問題かもしれませんが、私は出かけるときによく電車やバスを利用します。私たちが乗車するときの値段は大人料金。親と同じ値段です。けれど一つ疑問に思うことがあります。

「私たち中学生は働くことができないのに、何故大人料金なのか。」

私はいつも疑問に思います。小学校のときに行った鎌倉遠足と、中学校になってから行った鎌倉遠足。比較してみると倍近く交通料が変わっていました。こんなに変わっているのに費用を負担しているのは全て親なんです。私たち中学生は義務教育のため働くことができません。なのに値段は大人扱い。これだとお出かけをしたくてもできなかつたりしてしまっています。中学生から高校生に変わるの大人の階段なのかもしれないけれど、小学生から中学生に変わるのの子供の階段に過ぎません。だから私は公共交通機関で中学生料金を設定したいです。

以上の三つを区長になることができるなら、取り組みたいと思います。けれどそれぞれには、課題がつきもので、実現することは難しいかもしれません。でも、やってみる価値はあると思うんです。だから私は、この思いが少しでも区長さんに届くといいなと願います。

3 言葉の概念

横浜市立共進中学校 2年 金子 舞俐

突然ですが「障害者」とはなんなのでしょうか。「健常者」とはなんなのでしょうか。私は障害者や健常者という言葉が苦手です。だから、もし私が総理大臣になったら障害者と健常者という言葉だけでなくその概念をなくしたいです。そして、そう思うきっかけになったことが二つあります。

一つ目は弟の言葉です。ある日、弟と買い物に行っていたら弟が誰かにぶつかりました。その人はヘルプマークをつけていました。そのとき弟が「障害者だからしょうがないか。」とつぶやいていました。私は驚きが隠せませんでした。「障害者だから。」この言葉が私の中でひっきりかきました。たぶん弟は、その人を気づかっていたのでしょう。でもやっぱり私は「障害者」という言葉は差別しているようにしかきこえないのです。

二つ目は小学校での出来事です。廊下を歩いていたときにふと耳にはいつてきました。「これだから障害者は。」頭を石で殴られたような感覚になりました。とてもこわかったのを今でも覚えています。言葉は凶器にもなります。やはり、「障害者」や反対の「健常者」のような言葉があるからなのではないのでしょうか。

ここでもう一度問います。「障害者」とはなんなのでしょうか。「健常者」とはなんなのでしょうか。そういった概念があるから差別が生まれると私は思います。でも、生活にしみついている「障害者」は一人では生きていけない。健常者が助けてあげないといけない。」という概念は簡単には変わらないでしょう。だから私は「障害者」や「健常者」といった言葉ではない言葉をつかっていきたいです。そもそも人は一人では生きていけません。だれもが助けられ、助けているのです。だからどんな人でも平等、対等であるべきなのです。誰が助ける側、助けられる側なんてないのです。みんなで助け合うことが大切です。

私はこういった思いから総理大臣になったら障害者と健常者という言葉、概念をなくしたいのです。もちろん、総理大臣だけが頑張っても意味がありません。だからみんなで平和な世界への一歩をふみだしませんか。だから私はこの文章を私の声をだれかの心に伝えたいです。

4 まずは黒板から。

横浜市立共進中学校 2年 高田 紫

私がもし教室の黒板だったなら。感情はあるのかな？夜の学校は怖いかな？でもとりあえず、楽しそうだな。いや、さびしいかな。でも私は、黒板になってみたい。だって、毎日みんなの笑顔が見れるから。今の中学生っていうのは、誰でもグループでかたまりがち。だから自分達のグループの事しか考えられてないと思うんだよね。たとえば休み時間、自分達が楽しければいいと思っ

て、ぎゃーぎゃーさわいでるグループ。それを聞いて、うるさいなと思っているグループ。私はどちらかと言うと、前者かもしれない。けどさ、自分達だけが笑ってても、他の人達の笑顔が見られないのは、ちがうと思うんだよね。なんの話してんの？と思うかもしれないけど、結局教室全体を見ているのって黒板なんじゃない？だから私は黒板に質問したい。普段どんな気持ちで教室を見ているの？昔の中学生は、今と何がちがった？ってね。そして自分もそんな存在になりたい。「黒板」にならなくても、教室全体が見れる中学生。学年全体が見れる高校生。会社全体が見える社会人になりたいな。でも少し心配。だって黒板にはみんな話しかけないから。見守っているだけじゃ友達だって出来ないもんね。私には友達がいるけど、黒板には友達いるのかな？チョークが友達なのかな？まあとりあえず、私は君を超えるくらい良くて、みんなにあこがられる大人になってやるからな。君を超えるってことは、目標を決めなきゃいけないね。じゃあまずは黒板から。

5 ただいまが言える場所を作りたい

横浜市立共進中学校 2 年 陳 雨涵

もし私が総理大臣だったら、留守児童が安心して過ごせる社会をつくりたいです。

私は小学校3年生までは中国でおじいちゃんと一緒に暮らしていました。両親は日本で働いて、一緒に住むことができませんでした。小さい頃、両親と離れて暮らしていたのでとても寂しく、夜になると会いたくて泣いた日もありました。家に帰ると温かい家族の笑顔が恋しく、寂しさで胸がいっぱいになったことを今でも思い出します。でも親に会える日を楽しみにしながら、元気に過ごしていました。

その後、私は日本に来てやっと両親と一緒に暮らすことができました。家族がそろって過ごせる毎日は、本当に幸せで安心できるものだと感じました。でも、今の日本にも、私と同じように親と離れて暮らす子どもや、放課後ひとりぼっちで過ごしている子どもたちがたくさんいます。共働きの家族が増えている中で、留守児童の問題はこれからもっと大きくなると思います。だから、私は全国に「子どもが安心して過ごせる場所」を作りたいと思います。学校の空き教室や地域の施設を使い、地域の大人や先生たちが見守る場所にします。宿題をしたり、おしゃべりをしたり、本を読んだり、自由に過ごせる空間があれば子どもたちはきっと安心できると思います。あのとき、両親と離れて暮らしていた私もこんな居場所があったら、きっと毎日ひとりで感じていた不安やさみしさが軽くなるかもしれません。

もし私が総理大臣だったら、家の鍵をにぎりしめて帰る手が不安でふるえないように、どの町にも「ただいま」と言える放課後の居場所をつくります。温かいごはんを見守る大人、宿題と一緒に見る人、困ったときすぐにつながる電話やアプリ。地域の人とも顔の見える関係を広げ、「おかえり」「また明日」が当たり前になる毎日にします。働く保護者が胸を痛めない制度を整え、夜道やネットの危険からも守ります。そして何より、政策は机の上ではなく、子どもたちの小さな声から生まれるべきだと私は信じています。

「ひとりで我慢しなくていい。」そう実感できる社会こそ、私が実現したい日本です。私はその約束を胸に、いまの私にできる一歩「気づき、声かけ、手助け」をここから始めます。将来、立場が変わっても、この思いだけは変えません。すべての子どもが安心して過ごせる社会を、必ずつくります。

6 もし、私が横浜市長だったら。

横浜市立共進中学校 3年 押田 紗智子

もし、あなたが横浜市長だったらどんなことをやりたいですか？もし、私が横浜市長だったら、横浜市の問題だけでなく日本の問題も解決したいです。

突然ですが、男子トイレは並ばずに使えるのに対し、女子トイレは長時間並ばないと使えない。みなさんはこの現実疑問を感じたことはありませんか？

台湾の建築関係の法令では、男子トイレと女子トイレの設置数を1対3、トイレの場所によって1対5の割合で設置することが定められています。この法令は、女性も並ばずにトイレを使いたいという利用者の切実な願いを叶えることができました。これは、台湾が日本の九州と同じぐらいの大きさで、範囲が狭かったからこそ実現できたのではないかと考えられます。私はこのニュースを見て、ここまで男女平等の考えが進んでいる国があることに正直驚きました。

しかし、日本はどうでしょう。例えば、男女で出かけた先で2人ともトイレに入ったのに、男性のほうが先に済んで外で待っていて女性はまだ並んでいる。こんな場面に遭遇した、もしくは体験したことはありませんか？実際に私も修学旅行に行った時に、女子トイレに1度に何十人も入ったことで、とりあえず並ぶしかなく集合時間に遅れそうになったことがありました。そのときは、特に何も思いませんでしたが、台湾のトイレに関するニュースを見たときに、確かにこの日本の現実はおかしい、日本は遅れていると思いました。

そこで、もし私が横浜市長だったら、台湾のようなトイレに関する条例を新たに作り、女子トイレが少ないという現実を変えたいです。1度に全国規模で女子トイレの設置数を増やすとなったら、それは正直難しいことだと思います。しかし、まずは市という小さい規模で改革を始めることで、だんだんと男女平等の考えを日本全国に浸透させることができると思います。また、横浜市は日本からも世界からもたくさんの観光客が来る都市です。女子トイレの設置数を増やすことで、少しでも観光客のストレスを減らすことができるのではないのでしょうか。

このように、「もし、横浜市長だったらこんなことをやりたい」というテーマから日本規模の大きな問題に目を向けることができました。さて、もし、あなたが横浜市長だったらどんなことをやりたいですか？そんな、何気ないテーマから日本のこれからについて考えてみるのもいいかもしれません。

7 もし私が総理大臣だったら

横浜市立共進中学校 3年 ムンデレ 莉美ルタマ

もし私が総理大臣だったら、義務教育を16年制にしたい。理由は、無意味な分岐点を減らしたいからだ。現在の義務教育は9年制、中学校までだ。中学校を卒業したら、自分でその先の人生を決めていかなければならない。中学卒業後、多くの人は高校へ進学する。進学しないという人はかなり少ない。ここで一つ疑問が生じた。中学卒業後の進路選択は一体意味があるのだろうか。多くの人が高校へ進学したいと思っている。ならば、その人たちが確実に進学できるようにするべきなのではないか。子どもの将来の幅を広げるために、中学卒業というタイミングで人生の分岐点が設けられているのかもしれない。しかし、どのような人生を歩むにしても、知識は必要だ。学がなければ社会から必要とされない。となると、自分が望む職業にも就くことができなくなる。私からすると、9年間の義務教育で、社会に出て働けるほどの知識が身に付くとは思えない。日常生活でも、まだ中学生の自分には難しくて分からないことや、知らないことが沢山ある。生きていくには、今以上の知識が必要になる。だからこそ、全ての子どもは高校へ進学するべきだと思うのだ。そのためには、高校の3年間を義務教育にする必要がある。さらに、私は大学も義務教育にする必要があると思う。理由は、金銭的な理由で大学進学を諦める人をゼロにしたいからだ。先程書いた通り、生きるには知識が必要だ。これはどの仕事に就くとしても言えることだろう。したがって、大学に進学することは望ましい。しかし、大学進学には、多額な学費が必要になる。すべての家庭がその学費を負担できるとは限らない。その結果、大学に進学できない人が出てくる。それが知識の差となり、やがて金銭的な差になりうるかもしれない。これを防ぐために、大学4年間を義務教育とし、無償で大学に行けるようにする必要がある。知識は、長い時間をかけて蓄積させるものだ。つまり、長い間勉強をする必要がある。言い換えれば、学校に行く必要があるということだ。それならば、進学するかしないかという分岐点は無意味である。無意味な分岐点を減らして、少しでも子ども達の心が軽くなればいい。

中学生・高校生・一般の部

テーマ3 自由課題

.....

1 ほそみから学んだ問題

横浜市立永田中学校 1年 阿部 菜々実

みなさんは、ペットを捨てたことによる問題があることはご存じでしょうか。私は前からテレビでそうした問題があるのは知っていた。しかし私は犬も猫も金魚も何も飼ったことはないし、これからも飼うつもりはなかったから、自分にはあまり関係がないと思っていたが、そうではなかった。

私は今年の夏休みに長崎県の雲仙という場所に行った。雲仙は有名な温泉地で、温泉の定番、温泉卵ももちろんあった。温泉卵の売店には、たくさん猫がいた。ベンチに2匹、道ばたに1匹。すると祖母が、「ベンチの下にもいるね。」と言った。のぞきこむと細身の猫が1匹、ベンチの下でくつろいでいた。その猫をほそみと呼ぶことにして、ほそみの近くに1匹、子猫が寄ってきた。少し驚いたのは、その子猫がほそみと模様が似ていることだった。すると、売店の店員さんが、

「この猫たち、全員捨て猫ちゃんなんですよ。」と言った。私はとても驚いた。全員野生だと思っていたからだ。それから店員さんはほそみについて話した。

「この子は2年前くらいに、いつのまにか居たんですよ。若いな、と思ったんですけど妊娠していて、避妊手術ができなかったんです。1年後子供も産んだので避妊手術をするために店員3人でつかまえようとしたんですが見事に逃げられて。人になついてきたので今年こそは、と思っています。」

猫は一度に3～5匹産むため、はん殖力が高く、大量発生されると困るので、避妊手術をする。しかしそれにはお金がかかるし、手術の順番もあるため、大変なのだという。

法律には動物愛護法が存在する。動物愛護法とは、「動物の健康と安全を確保するとともに、動物による人への危害や迷惑を防止するための飼育及び保管等に関する基準」である。ペットを捨てるというのは、人への迷惑はもちろん想定されるし、動物の健康が確保できる訳ではない。しかし、飼い主を見つけて罰則を与えるのも厳しいし、飼い主が「捨てていない。逃げたんだ」と主張すれば、罰することはできなくなってしまう。

ほそみの様な問題は、雲仙だけで起こっていることではない。猫だけの問題ではない。日本、もしくは世界中で、様々な生き物でこの問題は起きている。動物も人間と同じく生きている。ペットを飼っている人からすれば、ペットは家族だ。家族と別れたいと思う人なんて、そうそう居ないだろう。そして、動物保護団体に属さない私達にできることは何か、考えてみてほしい。ペットを飼っ

ている人はペットという家族をその一生が尽きるまで、一緒によりそって生きてほしい。私はそんな人たちを、そっと見守れる存在になりたい。

2 他人事だと思わないで

横浜市立永田中学校 1年 小山田 華純

1945年8月9日11時2分。これは、長崎県に原子爆弾が投下された日です。みなさんはこの言葉を聞いて、何を思い浮べたのでしょうか。

私が小学1年生の頃、父の仕事による転勤により、横浜と長崎に住んでいた時があります。新しい環境が楽しみな気持ちもあれば、緊張や不安な気持ちがありましたが長崎に住んでいた頃の私にもっとも影響を与えたのは、長崎原爆です。

長崎の学校では、平和を願い、毎年8月9日には必ず黙とうが行われ、原爆を身近に感じる機会が多くありました。また、8月9日を「平和祈念」と定めて、全校登校日として平和祈念式典や平和集会を実施したり、原爆犠牲者の慰霊と被爆の実相を継承する活動を行っていました。さらに、平和学習、平和祈念式典、平和に関するイベントへの参加、平和ボランティアとの交流など、長崎ではたくさんの取り組みが行われていました。しかし、横浜はどうでしょうか。横浜で原爆を身近に感じられる機会はありません。長崎のように学校で何か行うこともありません。横浜の学校では長崎の学校のように毎年8月9日に黙とうは行われていません。横浜は、長崎よりも長崎原爆を知っていたり、意識している人の割合が長崎より圧倒的に少ないように感じました。本当にそれでいいのでしょうか。長崎の人や長崎原爆を知っている人だけが長崎原爆を意識するだけでいいのでしょうか。私は、誰もが長崎原爆を意識する機会を作るべきだと考えています。また、唯一の被爆国である日本だからこそできることを日本国民が一体となり、中心となって、原爆を伝えていくべきだと考えています。

長崎では、原爆や平和について、学校の授業や平和学習、家族からの話などを通して学んでいます。長崎原爆資料館を訪れたり、被爆体験者の話を聞くことで、原爆の悲惨さや平和の尊さを実感しています。他人事だと思わないでください。そして、横浜でも長崎原爆を身近に感じられ、意識できる機会が増えていけるように、今までの生活を見直してみてください。すると、長崎原爆への意識が変わってくるかもしれません。差別や偏見をなくし、多様性を尊重する心を育むことは意識していくために重要なことだと思います。

私は、私たち一人ひとりが平和な社会を築くために何ができるか考え、長崎原爆への意識を高めていきたいです。

私たちが意識し、行動することが大切です。そして、未来永劫平和な世界を築くために、みんなが原爆を意識する世界の実現に向けて行動していく必要があります。些細なことでも、積み重ねることで大きな力となりみんなが原爆を意識する世界の実現につながります。みなさんも原爆を意識してください。みんなが意識するすばらしい世界を願って。

3 ありがとう先生

横浜市立永田中学校 1年 勝部 仁一郎

みなさんには、心に強く残っている先生はいますか？私にはいます。その先生は、小学校5年生の時の担任の先生です。

最初の印象は、厳しくて怖そうな先生だなというものでした。最初の印象通り、子供たちに対して叱るときはしっかり叱る、ときには大きな声で注意をするといったこともありました。日々と一緒に過ごしていくうちにとても楽しい先生だということがわかってきました。

当時、私は好きなゲームがあってよくやっていたのですが、先生もそのゲームのことを知っていたので、休み時間などのちょっとした時間にゲームのことを話したりすることもできました。また、ひとりひとりの個性を認めてくれる先生でした。私はよく頭に思い浮かんだ疑問やアイデアをすぐに口に出してしまうので、大人からはもっとしっかり考えてから話さないかと叱られることが多くありました。でもその先生は、私のそういった部分をみんなが質問しづらいことを代表して質問してくれると言ってくれたり、好奇心旺盛でアイデアが豊富だと言ってくれました。

学年が変わり、新しい担任、友達との生活になりました。5年生の時は楽しく学校へ通っていましたが、6年生になってしばらく経つと私は学校生活を辛く感じるが増えました。コミュニケーションがうまくいかず、いじりやからかいの標的になりました。いじりやからかいに抗議をすると、「冗談なのになに本気で怒っているの？」と言われ、さらに疎外感を味わいました。このような生活の中で、学校へ行きたくなくて泣いてしまったり、実際に休んでしまうこともありました。

そのような私の状況に、学校の先生方は迅速に丁寧に対応してくれました。しかし状況がすぐに変わるわけではなく、苦しい生活が続く中で5年生の時の担任の先生は、校内で会うと私の好きなゲームの話と一緒にしてくれたり、なんでも話してねと声をかけてくれました。学校にいる時間のほんの少しの間でもほっとする会話ができたことは当時の私の心の支えでした。

中学生になり、6年生の時の苦しい学校生活の原因を考え、自分の未熟さなどを反省するとともに、5年生の時の担任の先生には感謝の気持ちでいっぱいです。小学校卒業後は直接お話する機会はほとんどなくなってしまいましたが、今でも中学校への登下校中に小学校の前を歩いて偶然会った時には手を振ってくれたりします。

先生、私の短所と言われてしまうような部分を長所と思えるようにしてくれてありがとうございました。苦しい時に何気ない話をしてくれてありがとうございました。私も先生が私にくれた安心や勇気を誰かに渡せる人間になれるよう努力していきたいです。

4 言葉と向き合う

横浜市立永田中学校 1年 加藤 柚希

「紙に書いたものは消しゴムで消せるけど言葉は消しゴムでは消せないよ。」
「言葉は心を写すかがみだよ。」母から教わったこの言葉は、今の私にとって一番大切にしたいと思っていることである。

中学生になり言葉について考える機会が増えた。新しい友だちとの出会いがあり、人と関わるのが大好きな私でも、不安や緊張がある。自分が思っていることは言葉に出さないと相手には伝わらない。でも何気ない一言が人を傷つけてしまうこともあるかもしれない。考えれば考えるほど勇気のいることだけど、いろいろな思いや考えを知ることは自分にとって財産になることばかりだ。新しい刺激がいっぱいの今は失敗を恐れず友だちと仲を深めていきたい。

私はバドミントン部に入部した。初心者なのでまだ技術も身についていないし、ルールもよくわかりきっていない。だが先日友だちが試合で戦っているのを見ている時に思わず「落ちついて！！できるよ。」と自然に声が出てしまった。結果は勝利し友だちに「さっきのかけ声にパワーをもらえたよ！！」と言われてこんな私でも役に立てたんだと嬉しい気持ちになった。

私は逆に勇気をもらうこともたくさんある。4月から新たなチームで大会に向けて挑戦している。難しいことも増え技術面でも精神面でも悩むことが多くなった。パフォーマンスで自分だけの技をやることになった。毎回上手くできるかドキドキしている。

そんな時、他のメンバーが踊りながら「ゆずなら絶対いけるよ～」「大丈夫！！」と勇気をくれる言葉をかけてくれた。大切な仲間からの励ましの言葉は何よりも力になる。また先生から円陣を組むときに「円陣はただ気合いを入れるためにやるの？そこで発する言葉の意味や気持ちで踊るんじゃないの？」と言われ心に刺さった。言霊と言う言葉があるが、言葉が持っている力はすごいと思った。

今はSNSの普及で相手と直接目を見て話すことが減っている。すぐ連絡をとれることは便利だが、文面だけではわからないこともたくさんある。受けとめ方一つで気持ちが伝わらず誤解されてしまうこともある。やっぱり相手の表情、声の雰囲気、抑揚などを感じながら会話する時間も大切にしたい。

正直私は本を読むことがあまり得意ではない。でもたくさんの人と関わる上で語彙力を身につけ自分の言葉の引き出しを増やしていくことはとても重要なことだと感じている。たくさん言葉の中から相手に合った言葉を選んで伝えられるようになるために、自分のできることから少しずつ学び、今よりもっと豊かな言葉を使える人になりたい。

言葉を大切にすることは人を大切にすることだと思う。自分の人生がこれから先、誰かとの出会いや誰かの言葉によって変化していくことを楽しみ、私の言葉で「自分の大切な誰か」に力を与える存在になりたい。

5 人の気持ちの向こうには

横浜市立永田中学校 1年 佐伯 美香

ペパーミント・パティは、スヌーピーで有名な「ピーナッツ」のキャラクターです。彼女はボーイッシュでスポーツ万能というプロフィールに加えて、授業中に居眠りしてしまうという特徴があります。もしも彼女がクラスメイトだったらどうするか。彼女の気持ちを考えて注意するとすれば、私は何と言うだろう。

人の気持ちを考えて、とよく言われますが、それがとても難しいことだと気付くのに、私は6年かかりました。6年生の時、ペパーミント・パティに出会いました。第一印象は、すごく自由な子だなあ、でした。勉強で最低評価を受けても、先生に抗議するほど大胆な性格は見えてあきません。でも、居眠りする、という点は、少し気に入らないと感じました。自分のせいで授業が聞けず、最低点をとっているなら、文句を言う権利はないと思ったのです。どうせ夜遅くまでテレビを見たりしているんでしょう。心の中でつぶやきました。でも、なにか助言する時は、彼女の気持ちを考えてこう言いたいです。

「家でたくさん眠れば、いいことたくさんあるから、早くねよう」

と。ですが、彼女にはもう一つプロフィールがありました。彼女に母親はいませんでした。夜遅くまで、働く父の帰りを、ずっと待っているそうです。これを知った時、私の言いたかった言葉は、ちりとなって消えました。ペパーミント・パティの気持ちを考えていたはずなのに、自分がかげよとした言葉が恥ずかしくなりました。居眠りする理由が分かっただけで、なぜこんなにも印象が変わるのでしょうか。

いくら気持ちを考えても、見えない部分があります。そこが一番重要なことかもしれません。今クラスメイトがふざけてかくしたえんぴつは、形見かもしれない。学校に来ないのはズルじゃなく、私達の知らない病気かもしれない。大げさでも、可能性はあります。大切なのは、人の気持ちを自分の中で作って決めるのではなく、理解してから考えることだと思います。

例えば、宿題ができず、テストで点がとれていない子がいたら。そういえば、最近よく教室をぬけるな。宿題ができないのは、そんなヒマがないから？そうだ、学校を連想するからできないのかも。仲は良いほうだし、一緒にやったら楽しくなるかな。このような考え方をすることで、初めて人の気持ちを考えていると思うのです。もしもこれが事実で、

「宿題やる時間ぐらいあるでしょ、点とりたいんでしょ、やらなきゃだめ」

と言ったりしたら、最悪です。

難しいですが、最初に例に挙げたペパーミント・パティのように、態度に出ない事情を持つ子はたくさんいます。本人が困っていなければ、話題に出さないという手もあります。でも、悩んでいたら考えましょう。人の気持ちの向こうには、大きな事実が待っています。

6 違いを知る、認める。

横浜市立永田中学校 1年 佐久間 湊也

この前、テレビのニュースで外国から来た人たちに対する差別について取り上げられていました。日本で暮らし、働いているのに、見た目や言葉が違うだけで嫌な事を言われたり無視されたりする人がいるそうです。僕は「まだそんなことあるんだ」とショックを受けました。

夏休みが終わる数日前、僕は「偏見」を目の当たりにしました。駅で外国の人が駅員さんに日本語で質問していましたが、少しぎこちなく、後ろにいた人が「ちゃんと日本語話せよ」と小声で言いました。僕はそれが引かかりました。その人は一生けんめい伝えようとしていたのに、ただ、日本語が上手じゃないというだけで笑われるのはおかしいと思ったからです。

考えてみると、偏見はとても簡単に生まれます。「外国の人は日本語ができないから」「見た目が怖い」など、よくその人のことも知らないのに勝手にイメージを作ってしまう。僕自身にも心当たりがあるんじゃないかと気づきました。

たとえば、僕の野球チームに新しい同級生が入った時のことです。最初は声も出さず練習もぎこちなく、「野球が苦手だろう」と決めつけていました。しかし試合でその1年生が大活躍し、僕は恥ずかしくなりました。「大人しい＝できない」と思ったのは自分の偏見だったのです。

こうした経験から、偏見は誰でも持つもので放っておくと相手を傷つける行動につながってしまうと思いました。軽い気持ちの一言でも相手にはダンベルのような重い一言にもなります。さらに偏見を見て見ぬふりするのも同罪です。駅で「日本語話せよ」と言った人に、僕は何も言えませんでした。怖かったのかもしれませんが、結果的に認めてしまったのと同じだと思います。だから僕は、「おかしい」と思ったときに勇気を出して声をあげたいです。大きなことを言うのは難しくても、「その言葉はよくないよ」と一言伝えることならできるはずです。小さな行動でも誰かの心を守るのだと思います。

偏見をなくすのは簡単ではありませんが、相手を知ろうとすれば少しずつ減らせます。そして周りで偏見を見たら「それは違う」と伝えることが大切です。誰もが安心して暮らせる社会は、ひとりひとりの小さな行動の積み重ねで作られていくのだと思います。

7 「動物の幸せ」を願って

横浜市立永田中学校 1年 平山 莉子

私は、動物が好きです。だから、母や父に犬を飼いたいと毎日のように言っています。しかし、ある日いつものようにネットで動画を見ていると、このような言葉を目にしました。「動物虐待」。私は虐待という言葉は、以前から知っていました。けれど、それが動物にもあてはまると知ったと

き、とても切ない気持ちになったのです。「動物虐待」とはどういうことか、なぜ虐待などするのだろうか気になり、調べてみました。すると、保護責任があるにもかかわらず動物を不必要に苦しめる行為であることが分かったのです。また、そのような行為をする人は、日々の生活にストレスを感じている、虐待が悪いことだという認識がない人だと考えられます。これは非常に無責任なことだと思います。

動物を飼うという大きな決断をしたのなら、最期まで責任と愛情を持って育てるべきだと考えます。以前までの私は、「動物が好き」、「かわいくていやされる」などの理由だけで犬を飼いたいと言っていました。だけど、様々な動物に関する問題を理解した上では、この考えは間違えていて、責任が足りないことだと気づくことができたのです。だから、もし私が動物を飼うという決断をしたら、命を預かっている責任と覚悟を持って育てていきたいと思います。

また、私の祖父母の家には1匹の犬がいました。その犬は、みんなでご飯の時間になると、一緒に食卓に座って美味しいものをたくさん食べさせてもらっていました。まだ小さかったときには、祖父と一緒にキャッチボールをして毎日楽しそうに生活していたことは今でも忘れられません。しかし、今年の夏に17歳で天国に旅立ちました。私が生まれたときから当たり前のようにいた存在だったので、いなくなってしまうと悲しかったです。でも、その犬にとってみんなから愛されてきたこの17年間はとても幸せだったと思います。私自身もあらためて命の大切さを感じることができました。

このように、動物にも人間と同じように幸せに生きる権利があります。そこで、私は動物についての幸せとは何か考えてみました。一つは、安心できる環境を整えてあげること。とくに、自分が信頼できる存在がいることが大切だと思います。そして、飼い主との関係性。飼い主から愛情を注がれていると動物が感じることで良い関係性を生まれさせる第一歩だと思います。だからこそ、動物の幸せのためには、私たち人間の努力が必要になります。それが、今、私にできること。今、あなたにできること。

8 悩みの先にあった未来

横浜市立永田中学校 1年 吉野 あずさ

うねりがあって毛量が多い髪の毛は、いつだって私の悩みの種だった。

普段通りの朝、だけど私は人一倍早く起きる。それは、忙しい朝のわずかな時間の中でまとまらない髪を整えなければいけないからだ。水で濡らすと、さらにうねりが強くなり寝癖は簡単には収まらない。学校に行くときや出かけるときは髪を結ばないと、まとまりきれなかった髪の毛が寝癖に見えてしまいだらしない見た目になり気になってしまう。ストレートヘアの友達は水に濡らせばすぐ寝癖がなおるが私の髪はそうはいかない。毎朝、鏡の前でため息をついてしまう。

小学5年生のときSNSで縮毛矯正といううねりのある髪を薬をつかってまっすぐにする方法を偶然目にし縮毛矯正に興味を持ち、実際に試してみることにした。髪をのばして鏡を見たとき初めて

学校や出かけるのが楽しいと思えた。ストレートヘアの友達みたいにストレートになれて今までの悩みが嘘だったかのように感じた。そのとき私は美容師として働く人たちのように「私も私の悩みがなくなったように誰かが自信を持てるようにしてあげたい。」と思った、その気持ちは今でも覚えている。

私の将来の夢は、美容師だ。私みたいに髪に悩みがある人に寄り添って、もっと髪に自信をもってもらったり人を笑顔にできる仕事をしてみたいと思った。私が縮毛矯正で笑顔になれたように美容師は髪を綺麗にするだけではなくて心を動かせる仕事だと思う。身近で親しみやすく誰もが一度は足を運んだ場所、美容室は人と人を結ぶ架け橋のように感じる。

今、私は自分の髪の毛に自信が持てるようになれた。ストレートアイロンで髪をまっすぐにしたり、いろんなヘアアレンジに挑戦したり、もっと髪についての興味を深めていきたい。今はまだ少しの経験しかないけど、将来は美容専門学校に通ったり髪を切るだけではなく、メイクやヘアセットを手がけたり、お客さん一人一人に合うメイクやヘアセットができるようになりたい。そのために、私は日本化粧品検定というものにも挑戦してみたいと思った。私の最初の目標、化粧品検定を取ることを本気でやってみたい。

まだ小学生だった私の悩みが今では、夢や目標を見つけるきっかけになった。だからこそ私が夢を見つけるきっかけになった髪の毛、悩みのあった髪の毛に興味を持つことができた。夢への一歩を大切に進んでいきたい。私が初めて抱えた大事な夢を胸に、これからも努力を続けていこうと決めた。

9 町内会の未来のために

横浜市立共進中学校 2年 藤木 和真

今年も9月に日枝神社の例大祭がやってくる。僕たちの町内でも、9月になると様々な準備をし、祭りの日を迎えることが恒例となっている。

僕は今年も「高張り」を努める。「高張り」とは神社の千貫神輿が氏子の町内を巡回し、伊勢佐木町から神社に戻るとき、氏子の各町内が高いさおの上にちょうちんを付けてお迎えに行き、神輿を先導する役のことである。

僕は昨年よりこの役を任うことになった。きっかけは町内会の青年部長から声がかかったからである。最初、「え、自分が」と思ったが、小学生のころからこの祭りに参加していたので、やらせていただくことにした。

よくよく考えてみると、適当な人はいないのだろうかと思った。しかし、自分より上の高校生くらいの人は行事では見かけない。もう少し大きく考えてみると祭りの担い手はここ数十年変わっていないのではないだろうか。連合の行事を見ると他の町内は少しずつ自分の親の世代の人が中心となって活動しているところがみられるが、自分の町内は少ないようである。

地域の担い手を世代交代させるには、結局子どもの頃から積極的に参加する仕組みを作り、その

ためには、若い親世代を動かしていくしかないだろうと考える。

僕の町内では子ども会の行事は比較約多くあり、子どもの数はそれほど多くないが、参加率は高い。祭りの時も、子ども神輿が出せるほど子どもは集まる。しかし、その子どもが自分たちの世代になると、とたんに地域行事に関心が向かなくなる。なぜなのだろうか。

まず、祭りは楽しいから子どもたちは参加する。そこで町の人が祭りの大切さを教える。その話を親も一緒に聞く。親世代はこの地域で生まれた人は少ないと思う。だから祭りへの思いもうすいのだろうと思う。

町での活動の大切さは学校でも教えてくれる。しかし僕の町には伝統の継承という大切なものがあり、300年以上続いている祭りを未来に継げるという大切な役目がある。子どもも親世代も、どんどん町に出て、地域活動の楽しさ、伝統を継げることの大切さを肌で感じてほしい。

私の曾祖父は若い頃からこの地域に住んでいた。日枝神社の祭りが始まると、神輿の守り小屋に一晩中詰めて家に帰らず、祭りにのめりこんでいたと祖母から聞いたことがある。そんな曾祖父がいたこの地域で生まれたのも何か縁だと思っている。これからもこの町のプライドを持って、地域の活動と祭りに参加し、友人たちに伝統を守ることの大切さを伝えていきたい。

10 終わらないマスク生活を越えて

横浜市立共進中学校 2年 松岡 伶奈

突然のマスク生活から6年が経とうとしている。発端となった新型コロナウイルスは収束を迎えているが、いまだに私の生活はマスクと共にある。

私がまだマスクを外せないきっかけとなったのは、男女数人で行ったカラオケでのことだ。いくらマスク生活と言われていてもお昼ごはんの時間は外すし、同じクラスであれば少なからず自分の顔を見せ、相手の顔を見る機会はある。カラオケの場でも自然にマスクを外した。

「マスク外すとブスじゃね？」

一緒に行った同じクラスの男子の何気ない一言が、私の心に深く激しく刺さった。腹も立ったし、悔しかった。傷ついた。そんな体験が学校ではさらにマスクを外せない状況を作った。

でも、そこまで自分の容姿が悪いと言われると、そうでもないと思う自分もいる。私たちは普段から、プリクラを撮るのもスマホで写真を撮るのも加工が当たり前の時代に生きている。もちろん、自分の顔が好きというほどでもないし、もっとかわいい子は沢山いる。ルッキズムと言われるように、容姿から与えられる印象は大事かも知れない。何をかわいいと思うのか、きれいと思うのか、かっこいいと思うのか。かわいいとは思っても自分の好みとは別物であったりもする。

人は皆、それぞれの基準で感じている。私の中にも美の基準のようなものがあって、これまでに外見や身体的な特徴で人を評価したことがあると思う。

私がマスクを外せないのは、長く続いたマスク生活のせいではなくて、一つのきっかけに過ぎないかもしれない。容姿についてだけではなく、誰しもが自分の考え方やものの見方を持っている。

人を傷つけるようなことはわざわざ言葉で発する必要はないし、相手が喜ぶことであれば素直に伝えることも良いと思う。ただ、こちらとしての評価や褒め言葉が、必ずしも相手にとって嬉しい言葉かどうかは分からない。

私のマスク生活はまだまだ続くと思う。言われた言葉は忘れられないけれど、そんな評価もあるのかと受け流しつつある。お金をかけて手術すれば容姿は変えられるけど、人の評価でそこまでする価値や意味は今の私には、見出せない。傷つく言葉を言われても、真正面から向き合わず「はいはい…」と受け止めつつも、流していける人になりたいとマスクの中で私は考える。

11 将来と今の私

横浜市立永田中学校 2年 桑 陽加里

私はいつもすぐ諦めてしまう性格で、将来の夢を決めても、すぐ「無理だ」と思ってしまいます。勉強も苦手で、大人に「行きたい高校やなりたい職業は？」と聞かれるたびに愛想笑いで「まだ決まなくて…」と答えてしまいます。そのたび、大人の少し困った顔を見るのが苦手で、自分が情けなく感じる事もありました。

昔は「将来何になろう」と考えるのが楽しかったのに、周りの子の将来の夢や、なぜその仕事に就きたいかを聞いていると自然と比べてしまい、自分の夢を胸を張って言えないと思うようになりました。失望されるのが怖くて、将来のことを深く考えるのも苦手になっていきました。自己紹介のときにも、将来の夢はまだ決まっていないと書き、みんなが目を輝やかせて話すのを見て、「すごいな」と思いつつ、なんとも言えない気持ちになっていました。どこかで、周りの子話を聞いて自分だけ取り残されているような気がして胸が苦しく感じることもありました。

そんな私が少し前に、大学生の習い事の先生に同じことを話した時、先生は優しく笑いながら「まあそうだね。でも意外となんとかなるし、そこまで深く考えなくてもいいんだよ。私もまだ決まてないしね？」と言ってくれました。その瞬間、私は自分の気持ちを受け止めてもらえたようで、とても安心しました。先生はいつも笑顔で、楽観的でさっぱりした性格。真面目だけど少し抜けているところもあり、とても話しやすいなと感じました。大学生で忙しい先生が私のために言ってくれた言葉は、私に「深く悩みすぎなくてもいいんだ」と思わせてくれるきっかけになりました。先生の優しさや気遣いに触れたことで、私は少しずつ自分の気持ちを認められるようになってきたと思います。何かに手一杯になってしまう私にとって、そんな先生の存在は憧れです。

それでも、夢や進路はしっかり決めた方がいいと思うので、少しずつ自分の目を見て、いいなと思う高校や仕事に近づけるような行動をしていこうと思うきっかけになりました。なので興味のあることを実際に体験したり、情報を調べたりして、自分に合うかどうかを確かめてみたいと思います。まだ夢を見つけるには遠いかもしれませんが、少しずつ経験を積み、自分の力で前に進むことを大切にしたいです。そしていつか、自分が本当にやりたいことを見つけて、胸を張って夢を喋れるようになりたいです。

12 私の町の夏祭り

横浜市立永田中学校 2年 高原 心美

私は自分の町の夏祭りが好きで毎年楽しみにしています。

お祭りの日は、お昼頃からおみこしを一生懸命担ぐ元気な掛け声が聞こえてきます。

そして日が暮れると、屋台から出る煙の良い匂いで溢れ、地域一帯がちょうちんで光りだし、町全体がいつもよりもさらに明るくなっていくように感じます。

さらに盆踊りとたいこの音が家まで聞こえてきて、気持ちが高まっていきます。

ここまではよくある普通の町のお祭りですが、実はこの町のお祭りには特別な時間があるのです。

私が初めて町の夏祭りに行ったのは小学1年生の時でした。私は入学したばかりで、仲の良い友達もいなかったのも、お祭りに行っても、みんなと仲良くできるのかと不安な気持ちでいっぱいでした。しかしざ行ってみると、その不安な気持ちはすぐに飛んでいきました。たくさんの人たちの熱気や笑い声、盆踊りをみんなで輪になり笑顔いっぱいで踊る姿、お店も町の人たちが協力し運営している様子を見て、なんて楽しい場所なんだろうと気持ちが高ぶったのを覚えています。

そしていよいよ特別な時間がやってきます。それは約100発の花火です。その花火は自分のほぼ真上に打ち上がりまるで空から降ってくるようです。こんなにも花火を間近に感じられることがあるのでしょうか。どん！という音を体で感じる事ができ、夜空一面に広がる無数の花火は他にはない特別なものだと思います。

初めてお祭りに参加して私は、ここは町の人たちの笑顔であふれる素敵な空間だと感じました。私にとって特別な夏の思い出になったと思います。

しかし小学3年生の時にこの大切なお祭りがなくなってしまうのではと、感じる出来事がありました。それは新型コロナウイルスの影響です。その影響で町全体が楽しめる場所がなくなってしまい、町のみんなの笑顔が消えたように思います。私自身もその夏はとても悲しく寂しい気持ちになりました。

この経験から、私は町の夏祭りがなくなってほしくない強く思いました。

私のように、不安な気持ちから参加しても、必ず楽しい時間になる素晴らしい空間です。そして夜空いっぱい花火を見て、毎年素敵な思い出を作ることができます。町全体が笑顔になるこの特別な夏祭りを、消えないでいつまでも続いてほしいなと思います。

13 家族、そして、生きること

横浜市立永田中学校 2年 武田 直華

私が今回このテーマで作文を書こうと思ったのは、この二つは密接に繋がっていると思ったからです。家族があってこそ自分がこの世に生を受けられた、生きているからこそ家族というかけがえのない存在に出会えた、そう思います。

今年の夏休みは、私にとっていろいろと考えさせられる出来事がいくつかありました。

まず一つめ、私の母が転倒して骨折をしてしまいました。母にとっては初めての骨折だったらしく、ぐだぐだ落ち込んでいました。そんなとき、私の姉が率先して家事をやり母の身の回りのことを手伝っていました。父は母を元気づける為に、近場ですが食事に連れて行っていました。そんなとき私は？大丈夫？と声をかけるだけしかしてないのでは？行動に移せてないのでは？そんな風に思いました。

そして二つめ、今度は私の母方の祖母が骨折しました。お盆に帰省したとき、階段から落ちてしまったのです。私は今度こそ自分が出来ることを行動に移そうと思い、早々に動きました。洗濯や洗い物、買い物後の整理整頓、祖母みたいにきれいには出来ないけど、とても喜んでくれました。祖母の嬉しそうな顔が見れて、良かったです。

そして三つめ、帰省中に、お墓参りに行きました。私が少し大人になったからなのか、今までとは違う気持ちでのお墓参りでした。そこには、私のご先祖様のお名前が刻まれていて、受け継がれてきた命のバトンなのだと改めて感じました。お墓には、とても静かで穏やかな空気が流れていました。私の方も、何だか穏やかな気持ちになれました。

タイトルに掲げた、「家族、そして、生きること」この夏は、私にとって予想もしなかった大きなテーマになりました。みんなが頑張ってきた、だから今の私がいる、辛いときがある、家族で助け合える、私が今生きている、だからこれからも後世に命を繋いでいける、ちょっと大げさなテーマかもしれませんが、今の私にとっては大切です。

これからも家族を大切に、人との繋がりを大切に、おごりなく自分を大切に、日々を過ごして行きたいです。

14 ハーフの苦悩

横浜市立平楽中学校 3年 野本 エレナ

私は、父がアメリカ人、母が日本人の日米ハーフなのですが、それで困ったことが三つあります。

一つ目は、日本語が話せないと思われて、英語で話しかけられることです。話しかけてくる人は相手の話せる言語に合わせようとしてくれるのはわかるけれど、日本にいるのに英語で話しかけら

れると一瞬何を言っているのか分からなくなるし、英語を話していると気づいても返答に困ってしまいます。

二つ目は、外国生まれと思われ、地元の伝統や特徴を聞かれることです。日本でこの質問をされると日本生まれと言って誤解を解かなければいけないのが、期待を裏切るようでとても申し訳ないです。外国から移住してくる方が多い今の時代だと、間違えてしまうのかもしれないと思うけれど、その質問をする前に地元を聞いてくれたらいいのにと感じます。

三つ目は英語が流暢に話せるんでしょと言われることです。父との会話などで小さいころから英語にふれる機会が多かったとはいえ、日本で生まれ、日本の学校に通っているので育った環境としては純日本人とそれほど変わらないはずだと思います。だからこう言われるとプレッシャーが大きく、ハーフに生まれたただけなのにと感じます。

これらの理由から私は、日本に住んでいるハーフの方や外国籍の方が自分の国籍で困ることがないように、生まれた国などを決めつけるのではなく、あなたの出身地はどこですか。などと聞いてくれる世の中になって欲しいと思います。

15 作文をやる意味

横浜市立平楽中学校 3年 長谷川 茉耶

今年もこの季節がやってきた。私の嫌いな作文を書かされる季節だ。私は昔からこいつに悩まされてきた。そう、あれは小学生の頃、やつは突然現れた。読書感想文だ。毎年夏休みにやって来ては私の頭を悩ませる。何度やつのせいで夜ふかしをしたらどうか。何度やつことではわたしが煮えくり返ったのだろうか。考え出したらきりが無い。私は毎年やつが来るたび、文字数制限ぎりぎりの最低限のものを書いていた。そして、小学校を卒業し、私は中学生になった。2年前、読書感想文が無いと聞いたときは心底嬉しかった。しかし私はまた別のものに頭を悩ませる。そう、今書いているこれだ。ボイス・オブ・ユース。人によってはこいつと仲良くできるのかもしれないが、自分で考えたことを文字に起こし、表現することが苦手な私は、どうしてもこいつと仲良くできなかった。

そもそも、なぜ作文というものは全員参加なのだろう。作文が得意な、やりたい人だけやればいいだろう。私はいつもそう考える。こんなもの無くなればいいのに。こんな拙い文を書いても誰にもほめられず、ましてや賞をもらえるのはほんの一握りの人だけだ。なぜこんなことをやっているのか。こんなことに意味はあるのか。私は必死になって考えた。

「人はやることに意味を見出したがる。」とはなんとなく聞いたことがあるが、これはその通りだと思った。現に私は作文をやる意味をどうにかしてあれこれ考えている。人はやる意味を見出し、「自分は意味のあることをしている。」と感じ、積極的に行動できるらしい。私も小学生の頃から、「これはきっと将来こんなことに役立つ。」「今頑張ればいつかきっとできるようになる。」と思い作文を書いてきた。しかし、「成功体験がないと人は行動しなくなる。」とも聞いたことがあるように、

やはり、人間一度は作文をほめられるなどの成功体験がないとモチベーションが落ちるものだ。要は、真面目に作文を書くことがばからしくなったのだ。青少年の主張、なんて言われているが、全く興味のないことへの主張なんてそれこそ意味がない。そして迎えた2年目の作文。私はこの年、人生で初めて作文が少し楽しいと思えた。それは、自由課題の存在だ。今まで難しそうだと思い手を出していなかったが、自分でお題を決め、好きなように書き進めると意外と楽しかった。それは今年も同じだ。作文のルールなどを考えず、思ったことをそのまま書くことは案外楽しい。

ここまで書いたが、私は作文が嫌いだ。ただ文を書くことはそこまで嫌いではない。興味のないことを大量の文字を使わされて書くことが嫌なのだ。そして、高校ではどんな作文がやって来るか考えただけで恐ろしいが、とにかく、そのときまでにまたやる意味を見出し、モチベーションが上がっていることを願う。

16 仲間と掴む、真の楽しさ

横浜市立平楽中学校 3年 前田 笑葉

私はダンス部に所属しています。私はスポーツのほとんどが苦手ですが、唯一ダンスは大好きです。ダンスが好きな一番の理由は、楽しいからです。アドバイスをし合い、苦手だった振り付けができるようになったり、自信を持って踊れるようになったりと、仲間と一緒に上達していくことがとても楽しいと感じます。ダンスは内向的だった私を変えてくれました。

私はダンス部に入ったばかりの頃、人前で踊ることが恥ずかしく、動きが小さい、表情が硬いなど、自信を持って踊ることができていませんでした。ですが私には、1期生として強い絆で結ばれた仲間がいます。そんな仲間とたくさん練習を重ねるうちに、恥ずかしさよりも楽しさが勝つようになりました。

そして私たちは今、3年生として部活をまとめる立場にあります。最初で最後の大会や3年間の集大成である文化祭に向け、日々練習に励んでいます。しかし、時々まとまりが足りないと感じることがあります。その理由は、部員の数が増え、一人ひとりの差が目立つようになったからだと思っています。一人ひとり違う人間なのだから、部活への取り組み方やモチベーションに差ができてしまうことは当然です。ですが、ダンスという団体競技に取り組む仲間として、少し寂しくなることがあります。

例えば、それぞれが話に夢中で指示が通らなかったり、練習中にずっと座っているだけだったり、「踊りたい」という気持ちが伝わってこなかった時、私は楽しくないなと感じてしまいます。友達と話すのは楽しいし、楽しむことは間違っていない。ただ、その行動が誰かの思いを傷つけることもあります。そこで、その「楽しい」が誰かの「楽しい」を妨げていないか、一度立ち止まって考えてほしいのです。

私はこの時声を上げることをせず、自分の気持ちを抱えきれなくなりました。そこで私は、部員の一人に気持ちを伝えることにしました。するとその子は、私の気持ちを理解してくれました。私

は、自分の気持ちをしっかり伝えればわかってくれる人がいると安心し、伝えることの大切さに気づきました。

この世には多くの人がいて、たとえ同じ部活に入っている場合でも考え方や行動には違いがあります。それは変わりません。だからこそ、自分の「楽しい」が全員の楽しさにできているか考え、自分の気持ちをしっかり伝えることが大切だと思います。そうすれば、自分と違う誰かと、お互いに尊重し合いながら、楽しいことに全力で向かうことができます。

私はこの経験を通して、物事に向き合う時は「考えること」と「伝えること」を大切にすることでより大きな「楽しさ」に繋がると考えました。最初で最後の大会、そして文化祭で、大切な仲間と一緒に最高のステージをつくれることを心から楽しみにしています。

17 自分と向き合う

横浜市立共進中学校 3年 郭 心怡

私は人の気持ちを考えるのが苦手です。その苦手さが故に人のことを避けたいと考えることもありました。

私は小学校の頃から友達が私に何を言ってほしいのか、母は私に何をしてほしいか理解するのが難しかったです。例えば、友達の自慢話に自分の正直な感想を言って不快にしたり、母の機嫌が悪い時にイタズラをして火に油を注いでしまったりと、私は気付かないうちに他人との関係にヒビを入れていました。その経験から、私は自分は相手の感情や状況を考えることができない自己中心的な人、コミュニケーションが下手、さらに一つの発達障害なのではないかと深く考え込むことがありました。それから私は自分の発言や行動をよく見直すようになりました。しかしその意識がエスカレートし相手を傷付けないための配慮が、相手に合わせるようになりそれだけではなく、私は相手以外の第三者の目まで気にしてしまい、発言、行動、外見など様々な面に気をかけるようになりました。もはや嫌われないように自分を守っているような気もして複雑な気持ちになりました。

しかし、中学校に上がり、成長していくうちにそんな私にも本音を言い合えるような友達ができました。中学校では慣れない環境、小学校のときと比べ物にならないほどの大きな悩みで心が折れそうになったけど、今まで私を一番に考えてくれる家族、新しくできた友達が寄りそってくれたおかげで、気持ちがだいぶ楽になったし、そんな人たちにも自然と本音を打ち明けることができ、互いの関係もさらに良くなっていきました。そんな関わりの中で私は人に優しくされたことをまた他の人にするようになりました。今までの私の相手を傷つけないための行動が相手を喜ばす行動に変わり、さらに自分を喜ばすものと誰かの優しさのおかげで私の心は大きく成長することができました。

今、中3である私は受験のことで頭を抱えることがあります。しかし、今の私ならこの壁を乗り越えられると思います。思いやりのあるクラス、ずっとそばで支えてくれる家族、友達、先生。

そんな人たちとの関係をずっと大切にしていきたいと思うように、私も誰かに大切にしたい存在になれるように努力していきたいと思います。

18 1人1人が平等な教育を受けれるために、私たちのできること

横浜市立共進中学校 3年 冬月 凱偉

今、タブレットやパソコンを使って学ぶ授業がどんどん増えています。とても便利ですが、実はこの「デジタル学習」には落とし穴もあります。それは、インターネットや機器が使えないことで勉強に差が出てしまう「デジタル格差」です。一人一人が平等に教育を受けるためには、このような見にくい差にも目を向ける必要があります。たとえば、家にWi-Fiがなかったり、兄弟が多くて1台のタブレットを交代で使わなければならなかったりする家庭もあります。学校では同じように見えても、家では学ぶ環境がちがうのです。こうした差をなくすために、「みんな同じ環境ではない」と知ることが大切です。また教育は「同じことを学ぶ」だけでなく、「一人一人が自分らしく学べる」ことも大切なのです。得意な人もいれば、苦手な人もいます。それなのに全員に同じ学び方をさせるのでは、本当の意味で平等とは言えないと思います。私たちにできることは、小さなことだけたくさんあります。たとえば、友達のわからないところはバカにせず、やさしく教えること。逆に自分がわからなくて困っている時は「助けて」と言える空気を作ることも大切なのです。みんなが安心して勉強できる場所を作るとは学校の先生や大人だけではなく、中学生である私たちでも作ることができます。平等とは、ただ同じものを与えることではなく、それぞれの違いを理解して、必要なサポートをすることだと思います。これからの社会では、こうした「ちがいを認め合う力」がますます必要になっていくはずです。こうして意識を持つ人が増えていけば、きっと世界はもっと優しく、明るくなっていくはずです。私たちが一歩ふみ出すことで、みんなが笑顔で学べる未来をつくっていけると信じています。

19 避難先でつけたあらたなゴール

横浜市立共進中学校 3年 水谷 ティマフェイ

僕は日本、ロシア、ウクライナの血が体に流れています。僕の従兄弟はウクライナ人です、彼は戦争のせいで人生が大きく変わってしまいました。ロシアとウクライナの戦争が始まった時、従兄弟は19歳でした。ウクライナに住んでいた彼は、家族と離れて日本に避難し、僕の家で一緒に暮らすことになりました。彼はプロサッカー選手になるという夢を持っていて、日本に来て毎日必死に努力していました。僕のバスケの練習や筋トレを手伝ってくれて、僕たちはまるで兄弟みたい

に過ごしていました。けれど、日本ではプロになるのは本当に難しく、従兄弟はヨーロッパの方がチャンスが多く可能性が広がると考え挑戦しました。最初はスペインのチームが彼に興味を持ち、トライアウトを受けるチャンスをくれました。彼は1～2ヶ月ほどスペインに滞在し、全力で挑戦しました。その後、チェコや他の国にも渡りましたが、あと少しのところで契約は取れず、夢は叶いませんでした。でも終りではない事を彼が証明します。日本に戻ってきた彼は、やっぱり日本でプロになるのは難しく、数カ月の滞在後、ウクライナに帰国を決断し、今ではウクライナのチームに入りプロ選手としてサッカーを続けています。でも戦争のせいで家族と離れ、自由に生活できず、夢を追うことさえ簡単ではなく、本当に想像を絶する苦しみだったと思います。それは今この瞬間もです。1日約200発以上月間では6,400発を超えるミサイルが飛んできて、それすべてを撃ち落とせるわけではありませんこれが現状であり、言葉に表せないほどの恐怖、死の雨です。最近トランプ氏とプーチン氏の直接会談が行われ少し希望が見えた気がします。戦争は人の人生を無慈悲に奪い、人、家、家族、そして夢までも奪うのです。従兄弟が経験した苦しみを見て僕も胸が張り裂けそうでした。それでも彼は夢を追い続け、今もプロとして活躍しています。僕は彼の姿を見て、どんな困難にも立ち向かい、平和の大切さを考え、行動していかなければと思います。もし戦争がなければ、彼はもっと早く夢を叶えられたはずです。ウクライナで家族と一緒に暮らし、安心してサッカーに打ち込めただろう。僕は思います。この世界はどうなっているんだろう。どうして争いばかりで、人が人を傷つけないか。言葉で分かり合えないのか。国や宗教や考え方が違って同じ地球に生きる仲間として、平和に共に生きていけたらどんなにいいだろうと思います。僕の願いはただ一つです。もう誰であろうと、誰の家だろうと、誰の夢だろうと、戦争で奪われることのない世界になってほしいということです。平和は遠い話じゃなく、僕たち一人ひとりが願い、その気持ちを行動にうつし、みんなで守っていくもので、互いに考え方や正義は違って、そこをどう上手く話し合い、共存していくことが平和への鍵だと思います。

20 未来をつなぐ中継地点

横浜市立南が丘中学校 3年 橋本 結南

私は中学1年生の夏、人生初めて大きなけがをしました。今まで体験したこの痛みにはひどく動揺し、頭が真っ白になったのを今でも鮮明に覚えています。心配の声をかけてくれる友達に対して私は「こんなの平気だよ。」「全然痛くないし。」と強がった態度をとりました。けれど、そんなの当然うそで、本当は今すぐにでも泣きたいし、今後の生活はどうになってしまうのか心の底から心配でした。

そして放課後になり迎えに来てくれた母と病院ではなく整骨院へ向かいました。こっちは大ケガしているのに整骨院だなんて何を考えているんだと思いました。整骨院は私の想像している場所とは違いました。同じ目線、優しい表情で対話してくれる先生、患者さんと仲睦まじく話している様子。その時、ずっと真っ白だった頭の中が暖かい橙色に染まりました。施術中も私が一番欲しかっ

たと言っても過言ではない、「部活もすぐに戻れるよ。」と声をかけてくれ、運動部だった私にとってこの言葉は大きな救いになりました。「そんなただのお世辞。」「仕事なんだから当たり前だろ。」と思う人もいるかもしれませんが。だけど私はお世辞とかそんなのはどうでもよくて声にしてくれたことがすごく嬉しかったのです。私はこの言葉を糧に、毎日トレーニングを怠らず予定よりもはやく部活に復帰することができました。

ケガをしてから約2年、気づけば中学校最後の年。周りは高校や将来のこと、未来についての会話がたくさん聞こえて来るようになりました。偏差値がどうか、制服が可愛い高校がいいとか。だけど、私は今まで誰にも話したことはなかったバスケットボールの選手になりたいという野望を抱きました。到底無理なのは分かりますし、プロの世界を甘くみているのも分かっていました。そんな下向きなことばかり考えていましたが、「じゃあ選手を支える側になればいい。」と母から声をかけてもらいました。この助言に過ぎない言葉に私は整骨院の先生、すなわち柔道整復師になりたいという想いがとても強くなりました。柔道整復師とは老若男女問わず、急性のケガに対し回復をサポートするものです。私は将来柔道整復師になり、以前の私のようにスポーツ選手になりたいと夢を抱く学生を救い、私に救いの手を差し伸べてくれた整骨院の先生のように下を向いている学生がいるならば背中を押して前を向いてほしいと思っています。

21 情熱バレーボール

横浜市立永田中学校 3年 浅香 美咲

中学校生活は部活のバレーボール一色。バレーボールの経験はないが、運動部に入部したかったから選んだ。こんなにはまるとは、思わなかった。入部して大正解。だって本当に楽しい。

そして3年目の夏。去年まではほとんど部活の毎日だったが、最後の大会を終え部活が終わったことを、あまり実感できずにいた。私のチームは冬、春、夏と区大会優勝、県大会出場を決め、迎えた県大会の1試合目。市大会ベスト16として出場するから当然、格上のチームしかいない。そんな中試合が始まり会場はチームの応援で一気に盛り上がり、緊張が走る。「自分たち信じて自分たちのプレイするよ。」と顧問に背中を押され、コートに立った。1セット目は、ナイスプレイが多く出たものの、惜しくも敗れ、後がない2セット目。「負けたくない」の気持ちが強く、自分たちのミスの連続で思うような試合にできないまま、終了の笛が体育館に鳴り響き、中学校でのバレーボールが幕を閉じた。試合後は「もっとチームのために何かできたはず。」とすごく悔しかったけど、プレイ中は楽しくも感じ、複雑な心情だった。

私のチームの練習着に書かれている「信は力なり。沢山の人の感謝したい。大切な仲間を本気で信じたい。皆のために勝ち続けたい。」とこんな凄い言葉を背負って、私は3年間バレーボールをすることができた。大好きだよこの練習着。チームの皆も同じ練習着を着て、バレーをする楽しさを知ったと思う。

「楽しいバレー」をするには、色々な人が支えてくれていたことと、ありがたさを実感した。時

には厳しく、大会最後まで「勝つよ」と、背中を押し続けてくれた顧問の先生。同じ経験をし、練習に来てアドバイスをくれた先輩。朝練や試合で朝早くてもお弁当を作ったり、送ってくれた両親。そして声が枯れるまで応援してくれた後輩。3年間辛い事も、悔しい事も乗り越え一緒に努力し続け、最後まで信じ合い笑顔で駆け抜けた最高のチームメイト。こんなに沢山の人の支えてもらってチームとして戦って過せた事。最後の応援歌と共にバレーコートに立てた事。この決して当たり前でないことに心から感謝したい。「バレー部で忙しくて大変だね」って言われたこともあるけど、私は大変だなんて思った事は一度もない。楽しくって、毎日学校に行ってバレーが出来て大切な仲間と信じ合う気持ちを、高め合って最高しかない。私のバレーボール部入部。あの時から始まって、ずっと続いて行く。皆高校は別々に進むのだろう。だけどこの中学3年生のチームメイトは永遠。

私の中学校での部活、バレーボールは終わってしまったが、最後の試合で自分への課題が見つかったから、これからは私は「大好きなバレーボール」を通して、学びながら、感謝しながら、楽しいバレーボールを続けたい。家族や仲間が支えてくれるから。頑張れる。

結んだね絆。もらったよ私の青春。

22 権利を守っていくために

横浜市立永田中学校 3年 勝部 はんな

今年の夏は参院選、横浜市長選挙と二つの大きな選挙がありました。18歳以上の選挙権を持つ皆さんは投票に行かれたでしょうか。

私は今までは選挙と聞いても、どこか他人事のように感じていました。選挙で誰が当選しても自分の日常はあまり変わらない、そのように考えていました。しかし、家にあった横浜市長選挙の公報を何気なく見たとき、中学校給食のことが書かれているのが目に留まりました。「あれ？これは私たちに直接関わることなのではないだろうか。」と気付いたのです。そして選挙というのは、国民や市民の生活に直結する大切な事柄を、私たちが間接的に決めるものなのだということが理解できました。これまでは遠くに感じられていた選挙が、急に身近なものになったのです。

私の両親は選挙があると必ず投票へ行きます。しかし今年の夏の参院選の投票率は、57.91パーセント前後（日本経済新聞）、横浜市長選挙の投票率は41.64パーセント（NHK）であったそうです。その数字を見て、投票に行かない人が多くいるという事実には驚くとともに、これまでの私のように選挙自体を他人事のように感じている人がたくさんいるのではないかと考えました。

では、どのようにしたらより多くの方が選挙を身近に感じ、自分事として捉えることができるようになるのでしょうか。選挙に立候補する候補者の政策や、所属する政党の公約が自分の生活上の問題や課題に近いほど、身近に感じられるでしょう。さらに大切なことは、選挙権を持つ人ひとりひとりの意識だと思いました。

この夏、二つの大きな選挙があったときに母に次のような質問をしました。「なぜ毎回選挙に行くの？」母はこう答えました。「選挙に行くのは当たり前だと思っていたのもあるけど、昔法

律について学んだときに『権利の上に眠る者』という言葉を知ったからだよ。』

権利の上に眠る者というのは、権利を持っているにも関わらず、その権利を行使せずに放置している人のことで、行使しなかったためにその権利は消滅し、保護されなくなってしまうという意味があるそうです。また、権利や自由は持っているだけでは維持されず、行使し、守り続ける不断努力が必要であるという思想も含む言葉だそうです。つまり、選挙に行ってその権利を行使することは、自分や自身の持つ権利を守ることにつながるのです。

このように、自分の持っている選挙権が当たり前のものではなく、行使し、不断努力によって守らなければならないものという意識をたくさんの人が持つことが、選挙を自分事として捉える上で大切なのではないかと考えました。

私が18歳になるまであと数年。様々な権利について考え、行使できる権利は行使し守っていこうと思います。

23 見えない「心」を伝えるために

横浜市立藤の木中学校 3年 倉谷 映里奈

皆さんは、社会のマナーとはどのようなことであるか考えたことはありますか。

私は、マナーの根本となるものは他者へ思いやる心であると考えます。また、それを伝えるためには言葉が大切だと思います。

以前、駅の階段で、両手で大きな買い物袋を抱えながら一步一步重い足取りで階段を上る高齢の女性とすれ違いました。その時、私はとっさに

「お手伝いしましょうか。」

と声をかけました。すると女性は

「じゃあ、お願いできるかしら。」

と答えました。階段を上り終えると

「わざわざありがとうね。」

と彼女が笑顔で言ってくれました。私はその時にほんの一言の言葉が、見知らぬ人の心をどれほど温かくするかを実感しました。

もし、私があの時、何も言わずに通り過ぎていたら、どうだったでしょうか。もしかしたら、その女性は困ったままだったかもしれません。この経験は、言葉が気遣いを形にして、相手に安心感を与える力を持っていることを教えてくれました。

私たちの社会は、多くの人々との関係で成り立っています。その中で一番大切であるものは、「言葉」で他者を「思いやる」ことだと思うのです。困っていそうな人がいれば、見て見ぬ振りをするのではなく、声をかけてあげる。これが本当の社会のマナーというものなのではないでしょうか。

私は、見えない「心」を伝えるために、より多く人が、「言葉」を使って行動し、社会全体をより温かいものに変えていくことを願っています。

24 私の将来の夢

横浜市立横浜総合高等学校 4年 久田 夏帆

私の将来の夢は、中学校教員になることです。なぜかという、私は中学校の先生になったら部活動を教えたいからです。部活動の良さは沢山あり、まず同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨していき高みを目指すことができます。次に部活動では技術面だけでなく社会に出たときの常識も学べると感じました。なので次は自分が指導者となり、自分が経験した部活をやっていく中での楽しかったことや、技術面、社会での常識を教えていけるような教員になりたいです。ですが今部活動の地域移行が話題になっています。私的にこの話題はとても嫌な話題です。もしも自分が教員になる前または、なった後に地域移行が本格化していたら、自分は何のために教員になったのだろうと感じると思います。数員を目指す全ての理由が部活動の指導だけではありませんが私の青春の半分は部活動の思い出ばかりです。教員の残業時間が問題になっているからといって部活動を地域移行するのではなくもっと他に良い対策はないのかと私は思いました。調べると学校行事や部活動の見直しなど生徒の楽しみを減らしたり無くしたりするのではなく教員でなくてもできる業務は、外部に任せたり、もっとパソコンが普及して保護者の連絡なども全てパソコンで行うことで、残業時間を減らせると思いました。最後に私が教員になるころには、今より働きやすい職場になるといいなと思います。

Rotary 横浜南ロータリークラブ

Rotary Club of Yokohama South

2025-26年度 国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ



よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary 

国際ロータリー第2590地区 横浜南ロータリークラブ
2025-26年度会長 福本 学

〒232-0014

横浜市南区吉野町1-3-16-301

TEL. 045 (261) 7788 FAX. 045 (261) 7787

Rotary 国際ロータリー第2590地区

横浜南陵ロータリークラブ



「地元の町や世界をより良くしたい」

ロータリークラブには
そんな仲間が集っています

横浜南陵ロータリークラブ

Rotary Club of Yokohama Nanryo

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-77-2 (株)ネコディア内 TEL 090-3225-2590 FAX 045-650-1251



私たちは、青少年の明るい未来を応援します。



横浜南央ロータリークラブ

〒231-0011 横浜市中区太田町1-11-3

TEL・FAX 045-664-0696

**日本の未来を担う子供たちを
応援します！！**

“水”は全地球の限りある資源
無駄遣いをなくしましょう

高度濾過・水処理のエンジニアリングメーカー



日本濾水機工業株式会社

〒232-0052 横浜市内南区井土ヶ谷中町9 1

TEL: 045-721-1211

No Drug, Know Drug

横浜市南区薬剤師会



薬物反対～
危険ドラッグ反対～



横浜市薬剤師会
薬物乱用防止マスコットキャラクター
ノードラくん

あたらしいを、あたりまえに

J:COM

Yokohama
GUMYOJI

横浜弘明寺商店街協同組合

人情・下町・門前町

毎月 第4日曜日
「橋の上の、弘明寺市場」開催中



◆イベント情報やお店の検索は公式ホームページをチェック！


弘明寺商店街


検索

横浜橋通商店街協同組合

ようこそいらっしゃい！

粋な下町へ...





横浜市営地下鉄ブルーライン 阪東橋駅 1 番出口から徒歩 2 分

自治会町内会は ボイス・オブ・ユースを応援しています

～自治会町内会が見守る子どもの笑顔～

自治会町内会の取組紹介

防犯パトロールや
子どもたちの登下校の見守り活動

ごみ集積場所や公園の清掃など
気持ちよく暮らせる環境づくり

防災訓練や避難所の運営を中心
になって実施

お祭りや運動会などのイベント
を通じて地域交流を促進

詳細はこちら



(自治会町内会について)



南区マスコットキャラクター
みなっち

加入の申し込みは、自治会町内会の役員などにご連絡いただくか、
以下の送付先をご確認いただき、Eメールもしくは直接窓口にてご提出ください。

送付先

- 〒232-0024 南区浦舟町 2-33 南区役所地域振興課(南区連合町内会長連絡協議会事務局)あて
- FAX 番号:045-341-1240
- Eメールアドレス:mn-chishin@city.yokohama.lg.jp またはQRコードを

読み込み、「住所・氏名・連絡先」を記載して送信

※提出されました個人情報、南区自治会・町内会への加入手続き以外には使用しません。



(加入申込について)

きりとり ✂

自治会町内会 加入(仮)申込書

年 月 日

ふりがな	
氏 名	
住 所	
電話番号	

※後日、ご加入いただく自治会町内会役員などから、加入についてのお手紙や連絡があります。

令和7年12月

編集・発行 南区青少年指導員協議会
事務局 横浜市南区役所地域振興課内

〒232-0024 横浜市南区浦舟町2-33 TEL. 045(341)1238 FAX. 045(341)1240

